

名鉄グループ 環境・社会報告書

Environmental Social Report

2009



目次

■ 名鉄グループの概要	1
■ ごあいさつ	2
■ 名鉄グループ経営ビジョンと経営計画	4
■ リスク管理体制とコンプライアンス体制	5

特集 8

■ 名鉄エコプロジェクト2009	8
------------------	---

環境活動報告 12

■ 名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制	12
名鉄グループ エコ・ビジョン	12
推進体制	13
アクション・エコ中期計画	13
環境マネジメントの導入	13
■ 名古屋鉄道の取り組み	14
名鉄エコ・プラン	14
①環境負荷の軽減	15
②利便性の向上	18
③地球環境貢献	20
④環境法令の遵守	21
環境負荷データ	22
環境会計	23
■ 名鉄グループの取り組み	24
鉄軌道	24
バス	25
タクシー	26
トラック	27
流通	28
不動産・開発	29
ホテル	30
レジャー	31

社会活動報告 32

■ 安全への取り組み	32
安全に関する基本方針と安全重点施策	32
安全管理体制	33
安全性向上対策	34
■ お客さまとのかかわり	38
■ 地域社会とのかかわり	40
■ 株主・投資家の皆さまとのかかわり	43
■ 従業員とのかかわり	44

編集方針

本報告書は、昨年に引き続き、名鉄グループの環境および社会への取り組みについて紹介する冊子として作成しました。

企業の社会的責任への関心が高まる中、本年より社会活動報告の中で、当社および当社グループを支えていただいているお客さまや地域社会、株主・投資家、従業員とのかかわりについて、ステークホルダーごとに内容を編集し、わかりやすく紹介しています。

本報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを促進していきたいと考えています。

対象組織範囲

名古屋鉄道㈱と名鉄グループ160社※を対象としています。
※関係会社169社から、実質的な経営権を有しない会社等を除いています。

対象期間

平成20年4月1日から平成21年3月31日までとしました。
ただしそれ以外の期間に組み込んだ内容も一部記載しています。

記載方法

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」を参考にし、可能な限りガイドラインに記載された事項を網羅するよう努めました。

本報告書に関するお問合せ先

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会事務局
(名古屋鉄道株式会社経営企画部内)
〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
TEL 052-588-0805 FAX 052-588-0809
E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp

表紙紹介

表紙デザインは、平成21年6月から展開している「名鉄エコプロジェクト2009」の一環として運行中の、自然豊かなまちをイメージしたラッピング電車「エコムーブトレイン」の車内吊りポスターに使用されているイラストを使用しています。
(関連情報→P8)



用紙

乗車券リサイクル紙を使用しています。



フォント

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。



インキ

大豆油インキの使用により石油系溶剤の使用量、VOC(揮発性有機化合物)発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。



印刷

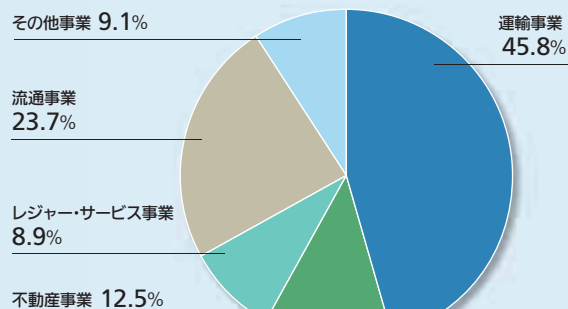
インク転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。



名鉄グループの概要 (平成21年3月31日現在)

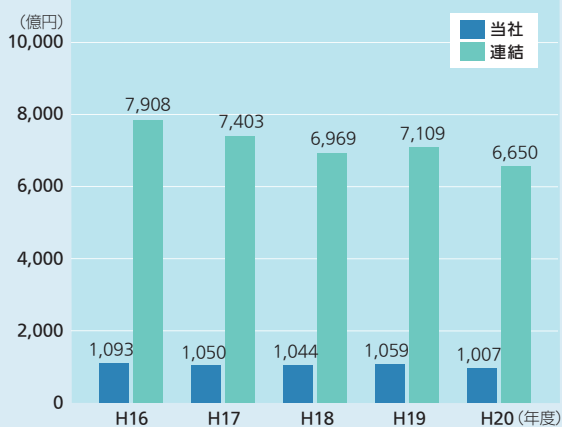
- 関連会社数 連結子会社 152社
持分法適用会社 17社
- 営業収益 6,650億34百万円 (平成21年3月期)
- 従業員数 33,855人
- 事業内容
- 運輸事業
鉄軌道、乗合バス、観光バス、トラック、
タクシー、船舶、航空
- 不動産事業
賃貸、分譲
- レジャー・サービス事業
ホテル・旅館、観光レジャー施設、
スポーツ施設、旅行業
- 流通事業
百貨店
- その他事業
情報、技術、保守、建設

■ 営業収益比率 (平成21年3月期)

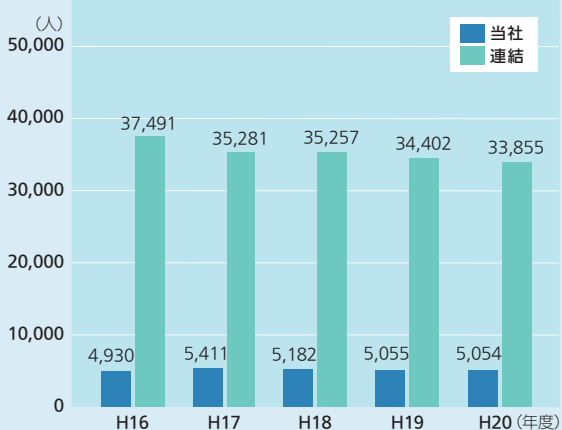


(注: 営業収益と営業損益はセグメント間取引消去前)

■ 営業収益の推移



■ 従業員数の推移



名古屋鉄道株式会社の概要

- 社 名 名古屋鉄道株式会社
Nagoya Railroad Co., Ltd.
- 創 業 明治27年(1894年)6月25日
- 設 立 大正10年(1921年)6月13日
- 代表者 取締役社長 山本 亜土
- 資本金 841億85百万円 (平成21年3月31日現在)

- 営業収益 1,007億12百万円 (平成21年3月期)
- 従業員数 5,054人
- 事業内容 鉄軌道事業、開発事業
- 駅 数 275駅
- 営業キロ 444.2キロ
- 輸送人員 年間347,237千人 (平成20年度実績)

■ 路線図





豊かな生活を実現する事 地域から愛される「信頼の

業を通じて、 トップブランド」をめざします。

当社は、皆さまに支えられ、本年創業115周年を迎えました。「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことを使命として掲げ、鉄道やバスなどの交通事業をはじめ、運輸、流通、レジャーなど、地域の皆さまの暮らしに密着した幅広いサービスを展開する企業グループとして、地域社会とともに、歩んでまいりました。

さて、昨今の経済情勢に目を向けてみますと、昨年末に端を発した世界的な景気後退により、名鉄グループを取り巻く経営環境は非常に厳しくなっています。加えて、少子高齢化や地球環境問題など多くの社会問題も顕在化しています。

こうした状況を踏まえ、平成21年度からスタートした「名鉄グループ新・中期経営計画」では、交通ネットワークの充実をはじめ、沿線地域における都市開発や生活サービスといった皆さまの生活をより便利に、より豊かにする事業を一層強化することを目標といたしました。本経営計画を着実に実行することで、経営ビジョンに掲げている「地域から愛される信頼のトップブランド」の具現化に向けて、グループ一体となってさらなる努力を行い、将来への明るい「展望」を拓いてまいりたいと考えています。

一方、環境問題について申しますと、本年は、京都議定書第一約束期間の2年目となりますが、わが国の温室効果ガスを平成2年比で6%削減するという目標の達成は非常に厳しい状況にあります。12月にコペンハーゲンで開催されます気候変動枠組条約第15回締約国会議（COP15）において、平成25年以降のポスト京都議定書としての国際的枠組みが決定されるのに向け、政府は平成32年の国内での温室効果ガス排出量を平成17年比15%削減するという中期目標を発表しました。この目標を達成するために、企業はより一層温室効果ガスの削減に積極的に対処していくことが求められます。また、来年10月には生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催されることが決まっており、当地域における環境意識はこれまで以上に高まってくると思われます。

このように社会の環境問題への意識が高まる中、名鉄グループでは、良き企業市民として地球環境保全活動の推進を企業の存続の条件と認識したうえで、平成18年に環境方針「名鉄グループエコ・ビジョン」を制定しました。その中で、「環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします」という基本理念を掲げ、グループをあげて環境保全への取り組みを推進しています。また、今年度から3ヵ年を期間とする「新アクション・エコ中期計画」を策定し、グループ全体のエネルギー使用量の削減などの環境活動推進を目標に、環境負荷の低減に向け、グループ一体となって取り組んでいます。

当社においては、エネルギー効率の高い鉄道やバスなどの公共交通を利用することそのものが「身近で簡単な環境活動」であることを広く理解していただくため、平成18年より「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。また、同キャンペーンの一環として、昨年度からは地球環境を考えるさまざまな施策やイベントを展開する「名鉄エコプロジェクト」を実施し、鉄道の環境優位性を理解していただき、環境にやさしい移動・行動を訴えることを通して、地域の皆さまとともに環境負荷の低減に取り組んでいます。さらに、パーク＆ライド駐車場の整備やバリアフリー化の推進、利便性の高いダイヤの策定、そして平成22年度末に予定しておりますICカードシステムの導入など、安全性や快適性の一層の向上に努めてまいります。

名鉄グループは今後も、社会に対して果たすべき役割や責任は何かを常に問いながら、社会・環境に貢献できる企業集団として、地域の発展に寄与できますよう真摯に取り組んでまいります。

名古屋鉄道株式会社 取締役社長

山本 亜土



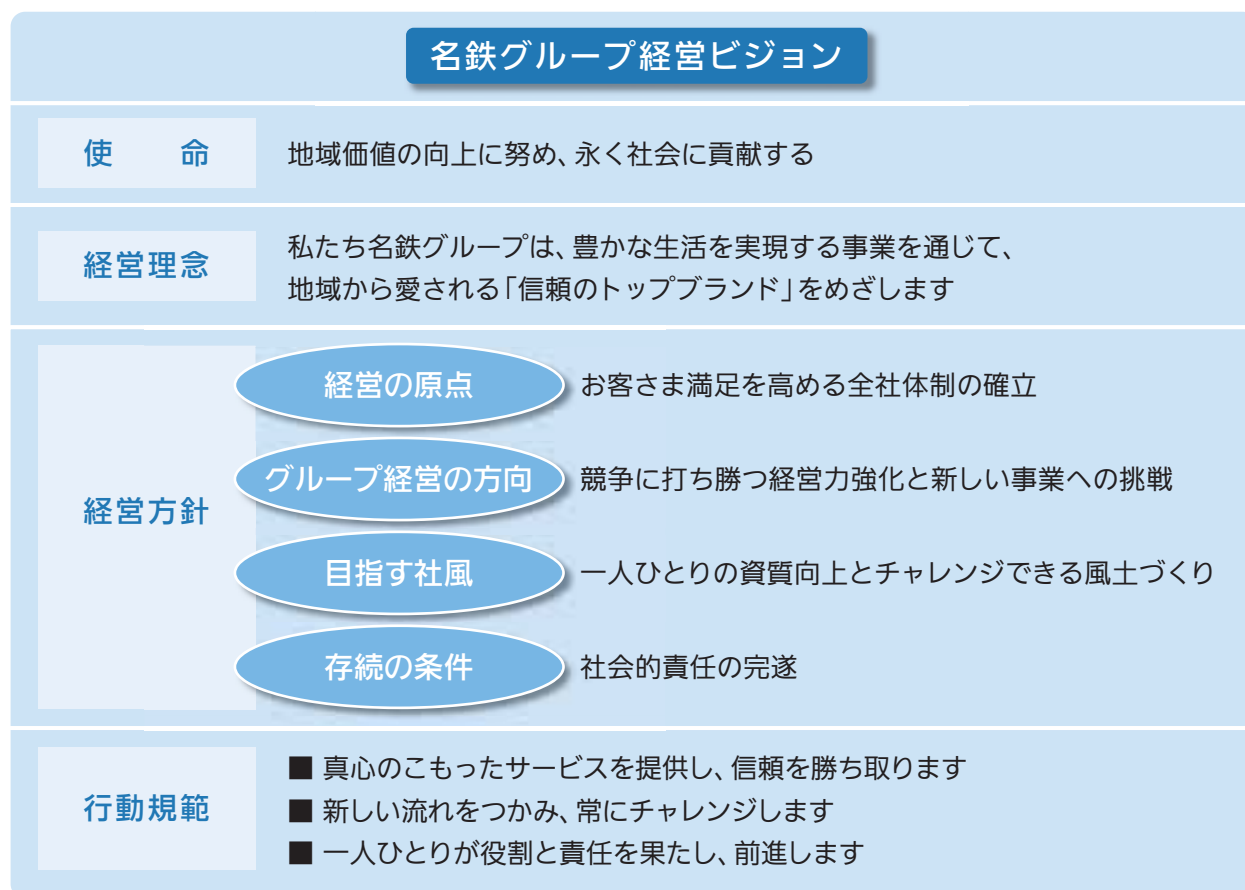
名鉄グループ経営ビジョンと経営計画

豊かな生活の実現をめざし、地域価値の向上に努めます。

【名鉄グループ経営ビジョン】

名鉄グループでは、平成17年12月に、グループの将来像や方向性を中長期的な視野で描いた「名鉄グループ経営ビジョン」を策定しました。

少子高齢化や顧客ニーズの多様化など経営環境の変化を背景に、改めて名鉄グループが事業を通じ果たすべき役割や責任、社会に存続する意義を明確にし、新たな発展へ向け経営基盤強化のベクトルを提示することで、地域から信頼される「名鉄ブランド」の確立を図ることを目的としています。



【名鉄グループ 新・中期経営計画（平成21～23年度）】

新・中期計画は、厳しい経営環境の中、『危機感』を持ってグループの経営改革に取り組み、重点事業を強化し、『展望』を拓くことを基本方針とし、諸施策を実行してまいります。

■ 重点テーマ

1 交通ネットワークの充実	2 生活サービス・都市開発事業の強化	3 グループ経営改革の推進
(1) 旅客サービスの向上 (2) 高齢化や環境重視への対応 (3) 地域との連携強化 (4) 将来の成長へ向けた 基盤整備 (5) 輸送体制の効率化	(1) 沿線を中心とする 生活サービスの向上 (2) 名駅地区などにおける 都市開発の推進	(1) 各事業の経営体制の見直し (2) 効率化の推進・強化 (3) グループ一体となった 経営体制の強化 (4) グループ規模での人材育成



リスク管理体制とコンプライアンス体制

信頼される企業であるために、事業を取り巻くさまざまな「リスク」を的確に管理するとともに、誠実かつ公正な事業活動を行うことにより、社会の発展に貢献します。

【リスク管理体制】

名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざしています。その前提となる事業の継続と安定的な利益の確保による発展を阻害するさまざまな要因を「リスク」ととらえ、それらを的確に管理していくことを経営の最重要課題の一つとして位置付けています。そのため、グループ全体のリスク管理を統括する「リスク管理委員会」を設置し、管理体制を構築するとともに、「名鉄グループリスク管理基本方針」を策定し、基本目的および行動指針を明確にします。

名鉄グループリスク管理基本方針

基本目的

1 平常時の予防及び軽減措置

名鉄グループの事業を取り巻くさまざまな「リスク」の把握に努め、平常時から、可能な限り損失発生時の未然防止、軽減措置を講じます。

2 緊急事態発生時の適切かつ迅速な対応

緊急事態発生時には、組織の機能を維持し、損害の拡大を防ぐとともに、迅速な復旧を可能にします。

行動指針

- 私たちは、より高い公共性と社会的責任が求められている事業者として、安全の確保を最優先します。
- 私たちは、会社関係者（お客様、株主、地域社会、取引先など）の安全、健康及び利益を損なわないように活動します。
- 私たちは、従業員などの会社構成員の安全及び健康を損なわないように活動するとともに、経営資源の保全を図ります。
- 私たちは、災害・事故などで被害を受けた場合にも、事業または業務を中断させないように備えるとともに、万一、中断したときには、迅速に復旧させることにより、事業者としての社会的責任を果たします。
- 私たちは、リスクが顕在化した際には、責任ある行動をとるとともに、再発防止のために最善の努力をします。

■ リスク管理委員会

名鉄グループでは、グループ全体のリスク管理を統括する機関として、最高リスク管理責任者である社長を委員長とする「リスク管理委員会」を設置しています。

同委員会では、グループのリスク管理の基本方針や施策などを審議するほか、各部署・各社に配置された「リスク管理推進責任者」や、特定のリスクについての具体的対応策を検討する「テーマ別リスク委員会」から、グループを取り巻くさまざまなリスクの管理状況について定期的に報告を受けています。

【コンプライアンス体制】

名鉄グループでは、地域社会からの信頼を得ることを基本的姿勢とし、誠実かつ公正な事業活動を行うことにより、社会の発展に貢献していくことを目標としています。そのために、「名鉄グループ企業倫理基本方針」を策定し、5つの基本原則や、それに基づいた具体的な行動指針を定めることで、自らの役割と責任を明確にして行動しています。

名鉄グループ企業倫理基本方針

基本原則

下記の五つを基本原則とし、前例や既成概念にとらわれることなく、オープンで風通しのよい企業風土を築き上げます。

1 ルールの遵守(法令遵守の徹底)

ルールを遵守し、社会規範に従い、高い倫理観を持って責任ある行動をします。また、万一、この方針に違反するおそれがあるとき、違反する行為をしたとき、または違反する行為を発見したときは、直ちに上司や関係者に報告し、適切な措置をとります。

2 安全の確保

安全の確保はすべてにおいて優先します。全社をあげて、絶えず安全が阻害されていないかどうかを監視し、安全性の向上に努めます。

3 公正な事業活動

お客様、株主、地域社会などすべての会社関係者に対し、誠実かつ公平正大に接し、透明性のある事業活動を行います。

4 積極的なコミュニケーション活動

広く社会とのコミュニケーションを行うとともに企業情報を積極的に発信し、開かれた会社を目指します。

5 人と社会の尊重

人権を尊重するとともに、良き企業市民として、社会貢献・環境保全活動などに積極的に取り組みます。

行動指針

行動指針は、常に私たちの行動のよりどころとなるものを、基本原則に従い具体的に定めたものです。

1 ルールの遵守 (法令遵守の徹底)	1. 厳正な職務の遂行 2. 適正な届出・報告 3. 顧客情報の厳正な管理 4. インサイダー取引の禁止 5. 知的財産権の保護 6. 会社財産の保護 7. 文書・情報の管理と守秘義務
2 安全の確保	1. お客様の安全確保 2. 健全かつ安全な職場環境の確保
3 公正な事業活動	1. 取引先との公正な関係 2. 明確で公正な契約の締結 3. 利益相反行為の禁止 4. 政治献金・寄付・選挙などへの適正な対応 5. 公務員との節度ある関係 6. 反社会的勢力との遮断
4 積極的なコミュニケーション活動	1. お客様への誠実な対応 2. 適時適切な情報開示 3. 適切な広報宣伝活動
5 人と社会の尊重	1. 人権の尊重 2. 社会貢献活動 3. 環境問題への取り組み 4. 私生活の自律

鉄道を利用すること、それは地球温暖化防止への近道です。 「電車で、ECO MOVE。」始めてみませんか？

地球環境への問題意識が高まる中、皆さまが普段心がけている「エコ活動」にはどのようなものがあるでしょうか。エコバッグを持ち歩き、レジ袋を断ったり、電気をこまめに消したり、家電製品を省エネタイプのものに買い替えたり、いろいろな活動が思い浮かぶと思います。

しかし、身近な「エコ活動」の一つに「鉄道を利用すること」が非常に有効であることをご存知でしょうか。地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の、国内で排出される約2割は人や物の移動に関わる運輸部門によるもので、そのうちのほぼ半分がマイカーによるものです。一方で、一度に多くの人を運ぶことができる鉄道は、そのわずか3%にすぎません。さらに、1人を1km運ぶ際に排出される二酸化炭素量を比較しても、鉄道はマイカーの9分の1となり、鉄道を利用することがいかに環境にやさしい移動手段であるかをお分かりいただけると思います。マイカーの環境性能は日々向上していますが、その保有台数の多さが地球環境へ大きな負荷をかけています。

名古屋鉄道では、電車で移動するという行動そのものが、環境にやさしい行動であることをもっと知っていただきたいという思いから、平成18年6月から「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。“ECO MOVE (エコムーブ)”とは、電車を使って「環境にやさしい移動をしよう」「環境にやさしい行動をしよう」というメッセージを込めた当社オリジナルのエコキャッチフレーズです。キャンペーンを象徴する「エコムーブマーク」を定期乗車券や当社発行のパンフレット類、また社員の名刺に印刷するなど、皆さまの身近なエコ活動の一つとしての鉄道利用を呼びかけています。



「エコムーブマーク」デザインのコンセプト

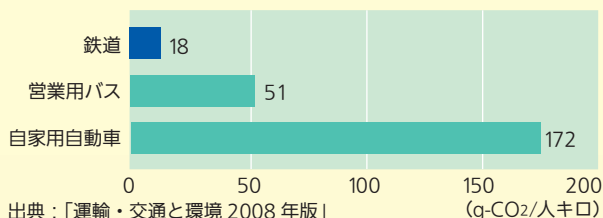


「ecology (環境)」の頭文字「e」をベースに、環境保全の象徴として誰もが認識できる「地球」をデザインの中心に据えています。親しみやすい「笑顔の電車」が、弧を描きながら上昇していくさまは、鉄道事業の躍動感とともに、環境にやさしい移動手段としての使命の永続性を表現しています。遠目には、地球のまわりをコトコト走り続ける、人にも環境にもやさしい電車を連想させ、鉄道事業と環境との調和を、柔らかに、かつ明快に示しています。



省エネルギー車両(3300系)

■1人を1km運ぶ際に排出する二酸化炭素量(平成18年度)



名鉄エコプロジェクト2009

名古屋鉄道では、平成18年6月から環境にやさしい鉄道の利用を促進するキャンペーンである「電車で、ECO MOVE。」を展開していますが、その一環として、「名鉄エコプロジェクト2009」を昨年に引き続き「環境の日」の6月5日から10月31日まで実施し、名鉄グループの環境への取り組みをPRするとともに、地域の皆さまと地球環境を考えるさまざまな環境イベントを展開しました。

1 “エコムーブトレイン”の運行

「名鉄エコプロジェクト2009」のシンボルとして各線を走行する、自然豊かなまちをイメージしたラッピング電車「エコムーブトレイン」を「環境の日」にあわせて6月5日から10月31日まで運行しました。車内を、当社および名鉄グループ6社の環境への取り組みを紹介するポスターで埋め尽くし、環境メッセージを発信しました。

ラッピング電車には、ブレーキ時に発生するエネルギーを電力に換え、他の電車の動力として使う「電力回生ブレーキシステム」などを搭載した省エネルギー車両3300系を使用しています。



車内吊りポスター例



車内吊りポスター例

夢のエコ電車を描いてみよう！

岐阜幼稚園のご協力を得て、園児の皆さんに「夢のエコ電車」を自由に描いていただき、エコムーブトレインの車内に掲出しました。個性豊かな「夢のエコ電車」が、未来の子どもたちが安心して暮らせる持続可能な社会を築く大切さを訴えかけてくれます。





2「親子で学ぶECO教室」の実施

「エコムーブトレイン」を臨時列車として走らせ、車内でエコについて親子で楽しく学ぶ「親子で学ぶECO教室」を実施しました。小学生とその保護者ペア120名が参加し、車内で地球温暖化や当社の環境への取り組みなどをわかりやすく紹介しました。

平成21年8月22日には、中部国際空港株式会社とタイアップし、車内で当社の環境への取り組みを紹介した後、中部国際空港の環境への取り組みについて学び、さらに燃料電池バス（協力：トヨタ自動車、知多乗合）に乗って、同空港制限エリア内を見学しました。

また同年10月31日に中部電力株式会社とタイアップして同様に臨時列車を走らせ、名鉄岐阜駅で下車後、エコハイブリッドバス（協力：名鉄バス、岐阜乗合自動車）に乗り、岐阜市ながら川ふれあいの森（岐阜市）にて、同社のエネルギー教育や間伐見学、丸太切り体験など、自然とふれあいながら環境学習を行う予定です。



集合場所の金山駅



エコセミナー車内の様子



燃料電池バス





3 “日本モンキーセンター スーパーサマースクール”の開催

COP10パートナーシップ事業※の一環として、小学校高学年を対象とした本格的環境体験プログラム「日本モンキーセンター スーパーサマースクール」を3回にわたり開校しました。東京、大阪、名古屋から集まった約80名の子どもたちは、学芸員によるサル学レクチャーとオリジナルのサル図鑑作り、サルの飼育体験と行動観察、石器作りと石器を使っの調理体験、夜の動物園探検と昆虫採集など、1泊2日の多彩でわくわくする講座を通じてサルとヒトと環境について楽しく深く学びました。



サルの行動観察



サル学レクチャー

※生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）支援実行委員会が、2010年10月のCOP10開催に向け、同委員会のパートナーとして会期前および会期中における事業やイベントを「COP10パートナーシップ事業」として募集しているもの。対象となるのは、市民団体、企業、学校、研究機関、自治体等が主催し、COP10開催と生物多様性の保全に向けた「地域からの行動（ローカルアクション）」に関連する事業やイベント。

4 「エコ・SFパノラマカード」の発売

環境にやさしい公共交通をより多くご利用していただくため、各種特典を付与した「エコ」をイメージしたオリジナルデザインのSFパノラマカードを3万枚発売しました。同カードを利用し名鉄百貨店へお越しいただくと、お買い物の際オリジナルエコバッグをプレゼントするほか、提携飲食店にて割引特典が受けられます。

また、使い終わったSFパノラマカードの回収促進のため、使用済みカードをご持参いただいた方に「オリジナルエコ・ナナちゃん携帯ストラップ」をプレゼントしました。回収したカードは、駅ホームのベンチ等のリサイクル事業に活用します。



見本

エコ・SFパノラマカード



エコバッグを肩にかけたナナちゃん



携帯ストラップ



オリジナルエコバッグ

5 「ナナちゃん」のエコ装飾

6月5日の「環境の日」にあわせ、同日から同月18日まで名鉄百貨店本店前の「ナナちゃん」が「エコ」をテーマに衣替えをしました。名古屋駅のシンボル「ナナちゃん」がエコバッグを肩にかけて環境保全の大切さを訴えました。

6 エコハイキングの開催

名鉄バスハイキングでは、ハイキングを通して環境について考えながら自然にふれあえる「エコハイキング」コースを設定しています。「国際生物多様性の日」である5月22日には、「貴重な海浜植物に出会う伊良湖岬・エコハイキング」コースを開催し、菜の花プロジェクトや風力発電など7つの環境プロジェクトを展開する田原市の先端、伊良湖岬の海岸沿いを歩き、途中で「愛知県栽培漁場センター」に立ち寄り、「栽培漁業」について学び、伊良湖岬灯台の下では、環境カウンセラーによる貴重な海浜植物のガイドが行われるなど、参加者は美しい自然にふれながら環境保護の大切さを学びました。

また、8月19日には「愛知の水源・牧尾ダムのふるさとを歩く・エコハイキング」コースを開催しました。参加者は、環境配慮型バスに乗り、愛知の水源として私たちの生活を支える牧尾ダムについて理解を深めたほか、王滝村の協力を得て、間伐材薪割り体験や記念植樹を行うなど、普段のハイキングに加えて、楽しみながら環境について考えるイベントを行いました。

※両コースとも「COP10パートナーシップ事業」。



栽培漁場センターの見学



環境カウンセラーによる海浜植物のガイド

7 名鉄グループ提供ラジオ番組「ECO STATION」の放送

6月1日から8月31日の期間中、毎週月曜から金曜8:46～8:51にZIP-FMにおいて、名鉄グループ提供のラジオ番組「ECO STATION」を放送しました。番組内では、名鉄グループの環境への取り組みや、海外・国内のエコに関する情報、リスナーから寄せられる身の回りのエコ活動を紹介しました。

8 「名鉄グループpresents ZIP-FM LOVE OUR PLANET LIVE」の開催

6月6日、「名鉄エコプロジェクト2009」の開催を記念して、自然環境に配慮した行動を呼びかける地球環境保護キャンペーン「LOVE OUR PLANET」に取り組むZIP-FMと共同で、名鉄百貨店ナナちゃん人形前特設ステージにて3組のアーティストによるライブのほか、エコ・クイズを行いました。イベントの様子は、後日同局のラジオ番組「SUNDAY HAPPY HOUR」で放送しました。



エコ・クイズ風景

環境活動報告

よりよい環境を
次代へ引き継いでいくため
グループ一体となって
地球環境保全に貢献していきます。



名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制

グループ環境方針のもと、推進体制を確立し、環境活動の深度化を図っています。

【名鉄グループ エコ・ビジョン】

名鉄グループでは、環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、平成18年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定しました。

名鉄グループ エコ・ビジョン

基本理念

名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします

基本方針

1 環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます

地球環境問題を正しく理解し、持続可能な社会の実現のために一人ひとりが行動できるよう、環境教育や啓発を通じて、意識向上を図ります。

2 環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます

グループが展開する幅広い事業を活かし、各社は保有・開発する環境保全事業やノウハウの共有と社会への提供を通じて、環境負荷の軽減を図ります。

3 地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます

地域を中心とした関係各方面と協力し、地球環境保全の向上を図ります。
また環境に関する情報公開を通じて、あらゆるステークホルダーとの対話を深めます。

4 環境法令の正しい理解と遵守につとめます

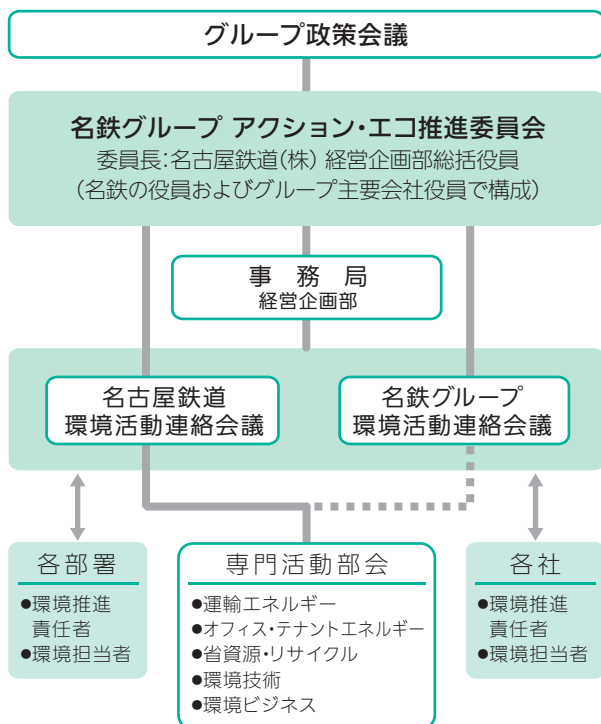
名鉄グループ企業倫理基本方針に則り、環境法令の理解・遵守はもちろんのこと、各社相互間の情報交換等を通じて、環境リスクの予防と低減を図ります。

行動目標

上記の基本理念・基本方針を受け、
名鉄グループ各社毎に、環境活動における行動目標を設定します

【推進体制】

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、平成18年4月に「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」を設置しました。この委員会では、グループ政策会議で決定される基本方針を受け具体的な施策の立案と推進を行います。施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や、各部署・各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。



【アクション・エコ中期計画】

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会では、グループが一体となった環境活動を推進するため、平成21年度から3ヵ年を計画期間とする「アクション・エコ中期計画」を策定しました。本計画では、環境ビジネスマッチングの実施やグループ共同での環境PRの展開など、グループの連携を強化するとともに、グループ全体の環境負荷を低減するため、各社で行動目標を立て取り組むことを掲げています。

■アクション・エコ中期計画の概要

- 1 グループ一体となった環境活動の推進
- 2 エネルギー使用量を毎年前年度比1%削減
- 3 各社環境行動目標の設定

【環境マネジメントシステムの導入】

名鉄グループ各社では、より環境に配慮した事業展開を行うため、各種の環境マネジメントシステムを導入しています。これにより、環境負荷の軽減や環境リスクの予防はもとより、経営効率の向上などの効果も生まれています。

■ISO14001認証取得会社

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	平成12年6月	JQA
矢作建設工業	平成12年8月	(財)建材試験センター
メイエレック	平成13年6月	JQA
電通名鉄コミュニケーションズ	平成13年9月	JQA
山梨名鉄運送	平成14年4月	JACO
名鉄ビルディング管理	平成14年6月	(財)東海技術センター
名鉄百貨店	平成14年8月	JQA
名鉄運輸	平成14年9月	JQA
名鉄協商	平成15年2月	(財)東海技術センター
名鉄クリーニング	平成15年3月	KHK
奥飛観光開発	平成17年3月	(財)日本ガス機器検査協会
中日本航空	平成18年11月	JQA
名鉄グランドホテル	平成18年12月	JQA

JQA: (財)日本品質保証機構 JACO: (株)日本環境認証機構 KHK: 高圧ガス保安協会

■グリーン経営認証取得会社

バス	名鉄観光バス / 宮城交通
タクシー	名鉄交通 / 愛電交通 / 名鉄西部交通 名鉄知多タクシー / 名鉄東部交通 名鉄名古屋タクシー / 浜松名鉄交通 / 豊鉄タクシー
トラック	信州名鉄運輸 / 四国名鉄運輸 / 名鉄ゴールデン航空 西肥名鉄運輸 / 東北名鉄運輸 / 柳島運送 / 名鉄急配 新潟名鉄 / トーハイ / 三陸貨物

■名古屋市エコ事業所認定会社

名古屋鉄道 / 名鉄病院 / 名鉄百貨店 / 名鉄協商 / 名鉄産業
矢作建設工業 / メイエレック / 名鉄環境造園

■自動車エコ事業所認定会社

名鉄バス

■エコアクション21認証取得会社

名鉄交通商事

(平成21年6月現在)

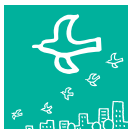
TOPICS

自動車エコ事業所の認定取得

名鉄バスでは、津島営業所および名古屋営業所が平成20年12月に愛知県から「自動車エコ事業所」として認定されました。これは、両営業所において、構内のバス停から利用されるお客さまに対し、パークアンドライドやサイクルアンドライドを実施しており、自動車環境対策への取り組みとして高く評価されたためです。



自動車エコ事業所取得



名古屋鉄道の取り組み

名古屋鉄道は、名古屋を中心として愛知・岐阜両県下に444.2kmの鉄道路線網を持ち、お客さまの足として公共交通サービスを提供しています。地球環境問題への意識が高まる中、エネルギー効率のよい鉄道は、マイカーに比べCO₂排出量が約9分の1であり、「環境にやさしい乗り物」として、その果たす役割が見直されてきています。当社は、省エネルギー車両への更新やパーク&ライド駐車場の整備、使用済み乗車券のリサイクルなどに継続的に取り組み、地球温暖化防止に努めています。

これからも、さらなる輸送サービスの向上をめざし、さまざまな交通事業者との連携や地域特性を生かした交通ネットワークの充実を図るとともに、安全で快適な移動環境を提供することで、お客さまの利便性と満足度を高め、地域社会に貢献していきたいと考えています。



【名鉄エコ・プラン】

平成19年4月に環境活動の基本的な考え方を示す環境方針「名鉄エコ・プラン」を制定しました。各部署は、この方針をもとに、それぞれの業務の中で発生する環境負荷の把握を行い、それを軽減させるために取り組める内容を「エコ・マニフェスト」として設定しています。

名鉄エコ・プラン

行動指針

1 環境負荷の軽減

省エネルギー、リサイクルなどの目標を掲げ、温室効果ガスを削減します。

○ 運転電力削減目標を達成します。

○ 使用済み乗車券のリサイクル率100%を達成します。

2 利便性の向上

効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境にやさしい鉄道の利用を促進します。

3 地域環境貢献

地域の皆さまとともに環境保全活動を推進し、環境にやさしい地域社会づくりに貢献します。

4 環境法令の遵守

環境問題に対する意識を高め、環境法令の遵守を徹底します。

行動目標

各部署が環境行動目標を設定し、「エコ・マニフェスト」として部署長が宣言し、実行する。

電車の運転電力原単位の向上

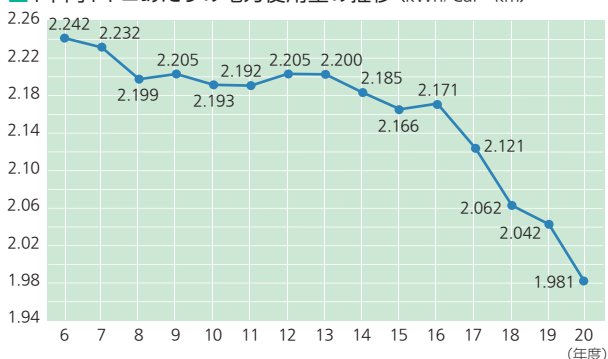
電車の運行では、非常に多くの電力を消費します。なるべく少ない電力で運行ができるよう、乗務員の節電運転研究や、線区ごとの省エネ活動組織（運輸エネルギー部会）での取り組みのほか、車両自体の省エネルギー化の推進や電気設備の改良を行い、原単位※の向上に努めています。

平成20年度は、車両走行キロの減少や新型車両の導入、効率的なダイヤ・車両編成に努めたほか、乗務員が節電を意識した運転操作に心がけた結果、原単位は前年度比約3%向上し、まもなく目標原単位を達成する見込みです。

※電車1両が1km走行するのに要する電力量

平成22年度の電車の運転電力原単位を、
全線で平成18年度比▲4%をめざします。

■1車両1キロあたりの電力使用量の推移 (kWh/Car-km)



車両の省エネルギー化

省エネの観点から、旧型車両の計画的な更新を進めています。ブレーキ時にモーターを発電機として作用させ、生み出された電力を架線に戻し、他の電車が加速する際その電力を使えるようにできる「電力回生ブレーキシステム」や、架線から受ける直流電流を交流に変換し、効率よく電力の使用ができる「VVVFインバータ制御」機能を

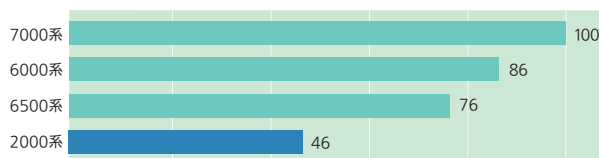
搭載した省エネルギー車両への更新により、消費電力の削減を図っています。

平成22年度までに、7000系などの旧型車両約46両を更新する計画をしており、平成21年度は40両新造（内24両は改造）予定です。今後も快適性の向上とともに、省エネルギー車両の導入を推進していきます。

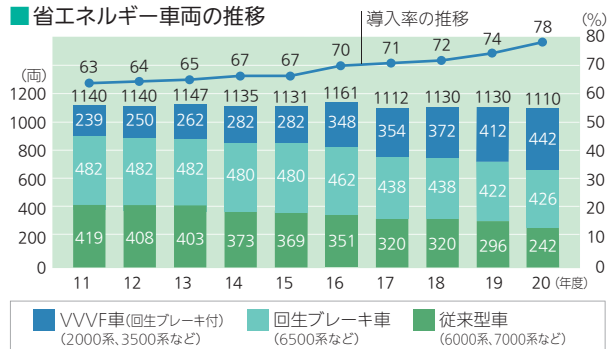
平成20年度末現在

車両数----- 1,110両
省エネルギー車両数----- 868両
省エネルギー車両導入率----- 78%

■名鉄の車両別消費電力の比較 (指数(7000系=100))



■省エネルギー車両の推移



■電力回生ブレーキシステムの仕組み



TOPICS

“人と環境にやさしい”瀬戸線・新型車両4000系

瀬戸線の栄町乗り入れ30周年を迎えるに当たり、車両の近代化を図るため、同線専用の通勤型車両4000系を新造しました。同車両は、VVVFインバータ制御、純電気ブレーキ（停止直前まで電力回生ブレーキ制御が可能）を採用して省エネルギー化に努めているほか、ステンレスの無塗装車体、低騒音型の機器を取り入れるなど環境にも配慮しています。各扉上部には、車内案内表示として視認性の高いカラー液晶表示器を採用し、お客さまに分かりやすい仕様となっています。



4000系

電気施設の省エネルギー化

鉄道事業において非常に多く使用する電力を、最大限効率よく使用し、地球温暖化防止に貢献するため、電気施設の省エネルギー化を推進しています。

■力率改善コンデンサの設置

大容量の電力を直接、電力会社から購入し、沿線35ヵ所に設けた自社変電所で受電し、主に電車の運転エネルギーとして使用しています。受電した電力を効率よく使用するため、変電所に力率改善コンデンサーを設置し、エネルギー効率の向上を図っています。平成5年から順次進めており、現在11の変電所で使用しています。

■き電線の強化

架線に流している電力損失の低減化を図るため、き電線を太くするなどの強化を進めています。



電気保守作業

■防音壁の設置

変電所などの設備において、防音壁等を設置することにより、変圧器のうなり音や開閉装置等の動作音による騒音の軽減を図っています。



防音壁を設置した犬山変電所

■上下一括き電方式の導入

架線に流している電力の損失低減と、回生電力の有効活用を図るため、当社のほとんどの線区で上下一括き電方式を採用しています。この方式は、上り下りの架線を接続し

て電力を供給する方式で、走行中の電車まで最短距離で電力を流すことができます。また、回生電力を上り下りに限定されることなく、上下どちらの線にある車両でも有効に使えるメリットもあります。

■信号機および踏切灯器のLED化

信号機および踏切灯器で使用する電球のLED化を順次進めています。LEDは電球に比べ消費電力が少なく、長寿命であるだけでなく、視認性にも優れているため、今後も新設または更新の際にはLED化を積極的に進めていきます。

■回生電力吸収装置の試験設置

電車の運転電力をさらに有効活用する方策を検討する一環として、平成20年4月、「回生電力吸収装置」を試験的に設置しました。この装置は、車両の「電力回生ブレーキシステム」によって、架線に戻された電気エネルギー（回生電力）を一時的に蓄電池に蓄えておき、必要に応じて架線へ戻すことができます。

回生電力は、それを使う電車がいない場合無駄になってしまいますが、この装置によってそれを防ぐことができ、電力の有効活用役立てることができます。



回生電力吸収装置

沿線環境保全

■ロングレール化

レールには継目があり、継目の上を列車が通過することにより、騒音と振動が発生します。これを防止するため、継目を溶接し、1000m前後の長さにするロングレール化を各所で進めており、全線で254.3kmに導入しています。

平成20年度ロングレール施行実績
7.3km(累計施行実績全線で254.3km)



土保保守作業

TOPICS

車輪フラット検出装置

メイエックでは、車輪踏面に発生したフラット・剥離・熱亀裂を早期発見する装置を、名古屋鉄道と共同開発で平成11年に導入し、騒音・振動低減と業務効率化に大きく寄与しており、他の鉄道会社にも導入されています。(特許登録済)

お問合せ 株式会社メイエック 技術開発部 鉄道技術課 052-678-1895



センサー設置状況

■レールの重量化

レールを重いものにすることで安定し、乗り心地が向上するほか、騒音・振動の減少にも効果があります。本線軌道長のうち99%が重レール(50kg/m以上のレール)になっています。

■防音型の保守作業機械の導入

防音型の保線機械の導入や作業効率の向上により、作業時の騒音軽減に取り組んでいます。



防音型マルチブルタイタンバー

リサイクルの取り組み

名古屋鉄道では早くから、使用済み乗車券のリサイクルに積極的に取り組んできました。平成8年度にリサイクルシステムを稼動してから段階的にリサイクル処理量を増やし、平成18年度には初めてすべての使用済み乗車券(定期券およびカード類含む)をリサイクルすることに成功しました。

紙製乗車券の大部分は、マテリアルリサイクルを行っています。封筒や紙ファイル、名刺などの事務用品をはじめ、駅のベンチや分別ボックス、トイレトーパーへの再生も積極的に行うとともに、リサイクルシステムを他の鉄道事業者などへも広げています。(平成20年度末時点20社局)

平成20年度は、使用済み乗車券が38t発生、すべてをリサイクル処理し、使用済み乗車券を原料に製作したリサイクルベンチを、笠松駅・太田川駅などに、67台設置しました。

平成20年度乗車券リサイクル率 **100%**



乗車券リサイクルベンチ(笠松駅)



乗車券リサイクルトイレトーパー

オフィスでのエコ活動

オフィスでの環境活動は、廃棄物の分別から省エネルギー、グリーン購入※に至るまで、さまざまです。身近で幅広いオフィスでの取り組みは、企業の環境活動の基本として位置付け、継続的に取り組んでいます。

※商品やサービスを購入する際に、価格や品質だけでなく、環境負荷ができるだけ少ないものを優先的に購入すること。

■多分別ボックスの設置

オフィスで発生する多種多様の廃棄物を、資源として可能な限り有効に活用したいという思いから、多分別ボックスの設置を行っています。

本社事務所では、11種類に分別し、廃棄物のリサイクル率向上を図っています。



多分別ボックス

■グリーン購入方針の策定

環境に配慮した資材や物品の購入を行うグリーン購入を進めています。当社では、平成15年に購入の際の指針となる「グリーン購入方針」を策定しています。

平成20年度グリーン購入率 **67%**(金額ベース)

名古屋鉄道グリーン購入方針

製品を購入する際には、次の項目に留意して、できる限り環境負荷の少ない製品の購入に努める。

1. 環境汚染物質の有無の確認
2. 省エネルギー製品の優先的購入
3. 長寿命製品の優先的購入メンテナンスの容易性など、できる限り長期間使用できる工夫のされている製品を優先的に購入する。
4. リユース・リサイクルの推進
5. リサイクル製品の優先的購入
6. 廃棄の際に環境負荷の少ない製品の優先的購入
7. 環境に関する情報を入手しやすい製品の優先的購入

■クールビズ・ウォームビズの実践

平成17年から、環境省が地球温暖化防止行動として提唱している「クールビズ」「ウォームビズ」を毎年実践しています。夏季は6月から9月までの4ヵ月間、本社を中心とした部署で、空調温度を高めに設定し、軽装による勤務を実施しています。冬季は12月から翌年3月までの4ヵ月間、「ウォームビズ」に取り組んでいます。

その他の取り組み

■自然エネルギーの利用

駅や駅ビルの設備において、太陽光や雨水など、自然エネルギーを利用しています。

尾張瀬戸駅では、平成13年から太陽光発電パネルおよび雨水タンクを設置し、駅の照明の一部、トイレの洗浄水を賄っています。また名鉄新一宮ビル（名鉄百貨店一宮店）および名鉄長住町ビル（岐阜ロフト）でも、雨水を雑用水の一部に活用しています。

平成20年度実績

太陽光発電 952 kWh

雨水使用量 10,792m³



太陽光発電パネル（尾張瀬戸駅）



雨水タンク（尾張瀬戸駅）

■コージェネレーションシステムの導入

名鉄新一宮ビルにはガスコージェネレーションシステムを導入しています。このシステムは、都市ガスで自家発電を行うとともに、発電時に出る排熱も有効利用できます。エネルギー効率は、電力会社から送られてくる電力が35%程度であるのに対し、このシステムでは70~90%となっています。

また、名鉄名古屋駅および本社、名鉄バスセンターのあるビルでは、ガスコージェネレーションシステムを活用した地域冷暖房を導入しています。



名駅南地域冷暖房プラントビル

エコ・プラン行動指針2 利便性の向上

バリアフリー化5ヵ年計画の策定と推進

皆さまに安心してご利用いただける「人にやさしい鉄道づくり」を進めています。施設面においては、「バリアフリー新法」に基づく駅施設の整備をさらに推進するために、平成22年度までのバリアフリー化5ヵ年計画を策定しました。同法対象駅79駅（平成20年度乗降人員実績による）のうち、平成20年度までに55駅において段差解消についての整備を完了しています。車両においても、車いす用座席の設置や車いす対応トイレを整備した車両の導入を進めています。

ソフト面でのバリアフリー化も推進するため、「サービス介助士※」（平成20年度末で93駅456名）の配置や「耳マーク」の掲出、「こども110番の駅」の取り組みなどもあわせて行っています。

※NPO法人「日本ケアフィットサービス協会」が認定する民間資格。



バリアフリー化した駅（笠松駅）

平成20年度バリアフリー化工事実施駅
8駅（「5ヵ年計画」累計達成率70%）

共通SFカードシステム

SF(ストアードフェア)カードシステム「トランパス」によって、1枚のSFカードで中部圏の他の交通事業者間を利用できるため、乗車券紙の削減につながるほか、一定のプレミアムも付与されているなど、利便性向上に大きく寄与しています。当社では平成20年6月の整備をもって導入を完了し、全275駅中261駅でご利用いただけます。



システムを導入した桜井駅

ICカードシステム

ICカード乗車券は、平成22年度第4四半期に、名古屋市交通局(地下鉄・市バス)、名鉄バスなどと共同で導入を予定しています。あらかじめカードにチャージ(入金)する「プリペイド方式」を採用し、自動改札機にタッチするだけで運賃を自動精算します。チャージすることによりカードは繰り返し使用できるほか、定期券機能も搭載できます。また、お客様の交通利用実績に応じてマイレージポイントを付与し、そのポイントは鉄道の自動改札機やバス車内で運賃として使用することができます。加えて、お買い物の際などにご利用いただける電子マネー機能も搭載する予定で、JR東海の「TOICA」など他の事業者によるICカード乗車券との相互利用の検討も進めています。

パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備

マイカーの利便性と鉄道の環境効率のよさを組み合わせた「パーク&ライド駐車場」の整備を積極的に進め、その活用をお客さまに呼びかけています。移動手段をマイカーから鉄道に切り替えていただけるほど、地域の環境負荷軽減につながります。より多くのお客さまに最寄りの駅の駐車場にマイカーを止め、駅からは鉄道をご利用いただけるよう、沿線に約2万台の駐車場を整備するとともに、「パーク&ライド」利用者向けにおトクなプリペイドカードの販売も行っています。

平成20年度新規整備台数

駐車場 64台(鳴海駅)

駐輪場 176台(上小田井駅)



パーク&ライド駐車場(鳴海駅高架下)

TOPICS

GW期間限定「エコどもきっぷ付1DAYフリー」を発売

「環境にやさしい」鉄道利用を促進する「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンの一環として、より多くの皆さまに環境にやさしい移動手段として鉄道を選択していただくため、平成19年よりゴールデンウィーク期間中に限り、名鉄電車全線一日乗り放題の大人用「まる乗り1DAYフリーきっぷ」に「エコどもきっぷ」という小児用「まる乗り1DAYフリーきっぷ」を3枚無料で付加した、便利でお得なきっぷを発売しました。マイカーでの移動に比べて渋滞がない鉄道は、早くて快適と毎年ご好評をいただいています。平成21年には、同きっぷを購入した際にお渡しする応募券でご応募いただいた中から抽選で「名鉄オリジナルエコバッグ」や「マイボトル」をプレゼントしました。

収納時



エコバッグ



マイボトル

沿線での清掃奉仕活動

名古屋鉄道は駅をはじめ沿線を中心に、多くの事業所が点在しています。事業所が所在するそれぞれの地域の皆さまと、よりよい関係を保ち、共存させていただくため、環境面での社会貢献活動も積極的に行っています。

例えば、本社周辺では「名駅をきれいにする会」を立ち上げ、名鉄グループの各社とともに毎月第2・第4月曜に名古屋駅前の清掃活動を行っています。

また、犬山検査場では、名鉄エコ・プランの行動指針の一環として、地球環境への貢献を目的に検査場周辺の清掃活動を定期的実施しています。



犬山検査場での清掃活動

環境コミュニケーションの推進

ポスターや広報誌、環境イベントなどを通じて当社の環境活動を広くご理解いただけるよう努めています。最近では、環境にやさしい電車の利用をPRする「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンの一環として、「エコ通勤へ、つながります。」をキャッチフレーズに、電車を使って通勤する「エコ通勤」を促進しています。

また、「名鉄でんしゃまつり」では会場内で当社の環境活動を紹介したほか、スタンプラリー形式で楽しく環境について学ぶ企画を実施しました。今後も地域の皆さまと環境について考える活動を進めてまいります。



「エコ通勤へ、つながります。」ポスター例

TOPICS

環境を詠む「エコ俳句・川柳」コース開催

名鉄バスハイキングでは、バスで出かけるハイキングがマイカーで出かけるよりCO₂の排出量が少なく、環境にやさしいことを皆さまに知っていただくため、環境について考える企画として、平成20年3月14日から16日まで開催した「信州南アルプス眺望・蘭ミュージアム」コースにおいて、ハイキング参加者に環境をテーマに身近なエコ活動や自然保護などを俳句・川柳にして詠んでいただきました。またバス車内では、環境保護やゴミの持ち帰り等のハイキングマナーについて、参加者へのご協力を呼びかけました。



エコ俳句・川柳を詠む参加者

「エコ俳句・川柳」最優秀賞			
我が足は 排ガス無しの クリンエネ	名古屋市 清水様	マイカーの 長距離やめて バスハイク	名古屋市 武藤様
ハイキング 油(車)使わず 脂(脂肪)とる	海部郡 落合様		



ハイキングを楽しむ参加者

環境教育

従業員一人ひとりが環境問題や環境法令に対して正しい認識を持つことが、活動の基礎として最も重要であると考え、全従業員に対して、定期的に環境教育を実施しています。(新規採用時、入社10・20年経過時、昇級時等)

■平成20年度 環境教育(研修)受講者数

新入社員研修	145名
鉄道運輸係員中途採用者研修	24名
入社10・20年次研修	296名
合計	465名

PCB廃棄物への対応について

カネミ油症事件に端を発し、製造が禁止された絶縁油「PCB」は、変圧器や整流器、蛍光灯の安定器等で多く使用されており、機器の使用中止後も専用の処理施設以外での廃棄処分は認められていません。

当社でも柱上トランスや、車両、ビルの電気室などでPCB使用の電気機器があり、使用後は厳重に保管をしています。平成20年1月に当社の廃棄物の処理が始まり、法で決められた処理期限(平成28年7月)までに完了する予定です。



PCB廃棄物の搬出作業

改正省エネ法への対応について

名古屋鉄道は、平成18年4月に改正された省エネ法に基づき、特定輸送事業者として、鉄道事業に係る省エネルギー計画書および毎年のエネルギー使用量の報告を行っています。

また、平成21年4月に改正された省エネ法に基づき、平成21年度分の当社全体のエネルギー使用量を平成22年7月末までに届出を行う予定です。

■鳴海工場跡地における土壌汚染について

【概要】 1930年頃から98年まで鉄道車両修理などに使用していた鳴海工場の跡地約21,900㎡について、土壌汚染の自主調査を実施したところ、約8,220㎡で土壌汚染対策法の基準を上回るフッ素および鉛が検出されました。なお、地下水汚染はなく、用地は立入り禁止になっているため、即座に地域住民に悪影響を与えることはありません。

【原因】 車両材料の切削屑や、バッテリー廃液の漏出などによるものと考えられます。

【対策】 名古屋市との協議に基づき、現在、汚染土壌の対策工事中で、平成21年度中に完了する予定です。

「パーク&ライド」で環境にやさしく!

「パーク&ライド」とは、会社や学校などの目的地に直接、クルマで行くのではなく、最寄りの駅やバス停近くの駐車場にクルマを停めて、鉄道やバスに乗り換え、目的地に向かう移動方法のことです。

■パーク&ライドのメリット

渋滞する場所に行く前に乗り換えるので

- ・環境負荷を低減できる
- ・運転でイライラせずに済む
- ・鉄道や地下鉄で予定時間までに確実に早く着ける
- ・目的地で空き駐車場を探し回らなくて済む
- ・都心や観光地の中心部の割高な駐車料金を払わなくて済む



名古屋鉄道では、パーク&ライドのための駐車場を沿線に約2万台分用意しています。

【環境負荷データ】

事業活動において、電力をはじめとしたエネルギーや資源を消費し、温室効果ガスや廃棄物を排出しています。これらの環境負荷をINPUT・OUTPUTとして把握し、環境負荷を低減する活動につなげています。

INPUT



電気

458百万kWh



都市ガス

316千m³



プロパンガス

26千m³



A重油

193千ℓ



ガソリン

80千ℓ



灯油

109千ℓ



軽油

96千ℓ



水

473千m³



紙(A4換算)

11,492千枚



熱

18,651GJ※

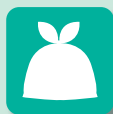
※GJ(ギガジュール)とは、仕事量、熱量および電力量の単位であるJ(ジュール)の10⁹倍に相当します。

OUTPUT



CO₂

219千t-CO₂



一般廃棄物

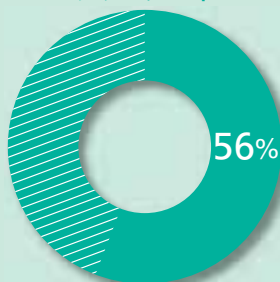
3,290t

うち

リサイクル

1,837t

リサイクル率



産業廃棄物

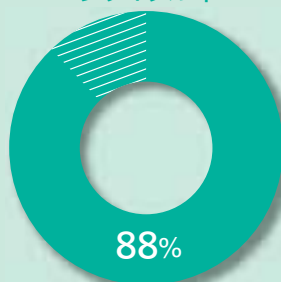
1,150t

うち

リサイクル

1,008t

リサイクル率



乗車券類

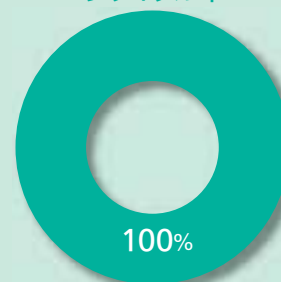
38t

うち

リサイクル

38t

リサイクル率



・名古屋鉄道株のみの数値。 ・数値は、切り上げて表示。 ・産業廃棄物の数値には、乗車券類の数値を含まない。
・二酸化炭素排出原単位の算定は地球温暖化対策推進法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準拠。

【環境会計】

環境保全への取り組みを、投じたコストやその効果への両面からできるだけ定量的に把握し、効率的かつ効果的に環境活動を行うため、環境会計を導入しています。

平成20年度の環境保全のための投資額は21億1百万円、費用額は3億90百万円でした。新型車両の導入・電気設備の改良等による省エネルギー化やパーク＆ライド駐車場整備などの温暖化防止対策については、前年比2億66百万円増加したほか、環境教育やイベントを通じた啓蒙などの活動については、前年比12百万円増加するなど、環境保全に対して積極的な活動を行いました。今後も環境保全コストの管理やその効果の分析を行うことにより、より一層効果的な環境保全活動に取り組んでいきます。

■環境保全コスト

(単位:千円)

内 容		投資額	費用額
内 訳	(1)事業エリア内コスト	2,081,060	262,491
	①公害防止コスト	騒 音 対 策:ロングレール化、PCマクラギ化、 レールの重量化、防音車輪導入など 大気汚染対策:アスベスト処理など 水質汚染対策:排水・汚水処理設備の設置、改修など	417,976 141,742
	②地球環境保全コスト	パーク＆ライド駐車場の整備、き電線改良、 シリコン整流器更新、VVVF制御化など	1,553,711 38,668
	③資源循環コスト	廃棄物処理・処分、廃棄物のリサイクルなど	109,332 82,082
(2)上・下流コスト		グリーン購入	21,120 67,416
(3)管理活動コスト		人件費、会議費、ISO活動維持費、環境教育費用、 環境報告書の作成、イベント費用など	0 59,424
(4)社会活動コスト		環境保全を行う団体への支援など	0 858
環境保全コストの合計		2,100,800	390,189

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標	
		指標の分類	指標の値(量)
(1)事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業エリア内効果)	①事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力	11,984,720kWh
		太陽光発電	952kWh
		水道水	10,792m ³
	②事業活動から排出する環境負荷 及び廃棄物に関する効果	使用済み乗車券の 再資源化による 廃棄物抑制量	38t
(2)上・下流で生じる環境保全効果 (上・下流効果)	③事業活動から算出する財・サービスに関する効果	—	—
(3)その他の環境保全効果	④輸送その他に関する効果	—	—

■環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

効果の内容		金 額
収 入	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	184,459
費 用	省エネルギーによるエネルギー費用削減	163,934
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	3,303
合 計		351,695

○集計期間:平成20年4月1日～平成21年3月31日

○集計範囲:名古屋鉄道㈱の事業範囲

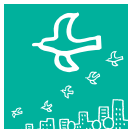
○確実に把握が可能で、環境目的が高い項目を計上

○金額は税抜き、千円未満を切り捨てて表示

○環境省「環境会計ガイドライン」及び(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠

○事務用品におけるグリーン購入費用は全額計上

○費用に減価償却費は含まず



名鉄グループの取り組み

Railroad

鉄軌道



鉄軌道事業は、東海および北陸地区において、地域に密着した鉄軌道事業を展開しています。「環境にやさしい」と、その存在を見直された鉄軌道の存在意義をさらに高めるため、一層乗りやすい、使いやすい鉄軌道をめざしています。

全面低床電車LRV「ほつらム」が「ローレル賞」を受賞

豊橋鉄道は、平成20年12月に導入した全面低床電車LRV（Light Rail Vehicle）「ほつらム」が、鉄道友の会の2009年「ローレル賞」を受賞しました。これは同車両が、乗降口とホームとの段差が小さく、車内最小通路幅を800mm以上（820mm）とし、車いすスペースも確保、高齢者や車いす利用のお客さまの乗降に配慮するなど、「狭軌軌道用LRVにおける、純国産初の100%全面低床車両」を実現したことが、高く評価されたものです。また、同車両は3車体連接2台車方式で騒音や振動の低減を図るとともに、VVVFインバータ制御を採用し省エネを図った、人と環境にやさしい車両です。

お問合せ 豊橋鉄道株式会社 鉄道部 0532-53-2136



LRV「ほつらム」

サイクルトレイン・イベントを開催

大井川鉄道では、平成20年3月2日にサイクルトレイン・イベント「ちゃりんこトレイン大井川」を初めて開催し、23名が参加しました。

参加者は、新金谷駅から臨時電車で自転車を持ち込んで乗車し、駿河徳山駅で下車後、家山駅までの大井川沿いを下る約30kmのコースを自転車で駆け抜けました。途中の休憩ポイントでは、地元の川根茶や豚汁が振る舞われるなど、大自然と地元の味をお楽しみいただき、大変好評でした。

お問合せ 大井川鉄道株式会社 0547-45-4111



サイクルトレイン

TOPICS

軌条踏面塗油装置

メイエレクトリックでは、列車が急曲線部を通過する時に発生する、周波数の高い不快な「きしり音」の低減装置を名古屋鉄道と共同開発し、昭和62年より随時導入し、騒音低減に大きく寄与しています。

お問合せ

株式会社メイエレクトリック 技術開発部 機器整備センター 052-678-1843



装置設置状況



B u s



バス事業は、鉄軌道事業とともに、地域の皆さまの足として、愛知・岐阜県内をはじめ、北陸、東北地区にも路線網、営業網を展開しています。バス事業各社では、排ガス規制に伴い環境にやさしい車両への更新を順次進めているほか、乗降しやすい「ノンステップバス」など、人にやさしい車両の導入も進めています。一部の会社では「グリーン経営認証」を取得するなど、さらに環境に配慮した事業展開を行っています。

エコ・ハイブリッドバスの導入

名鉄バスでは、平成20年9月に環境にやさしく燃費効率に優れた「エコ・ハイブリッドバス」を新たに10両導入し、現在合計14両が名古屋市の中心部を走る「基幹バス」路線において運行しています。このバスは、屋根上に搭載したリチウムイオン電池に蓄えられた電気エネルギーのみを使用して走行する電気自動車です。充電量低下時には、発電用ディーゼルエンジンが稼働します。

今後は、平成23年度までに約20両導入する予定で、CO₂排出量低減や燃費向上に加え、騒音や排気ガスの抑制の効果を期待しています。

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780



エコ・ハイブリッドバス

バイオディーゼル燃料バスを運行

宮城交通では、平成21年6月16日から12月31日まで、廃食用油からつくられたバイオディーゼル燃料(BDF)を使用した乗合バスを4両導入し、仙台市内を中心に運行しています。これは環境対策の一環として平成19年度から運行しているもので、今年で3年目の取り組みです。

BDFは、使用済みのてんぷら油などをリサイクルし、軽油の代わりにディーゼル車に利用できるようにしたリサイクル燃料です。軽油に比べて黒鉛が軽減されるだけでなく、排ガス中に酸性雨の原因となる硫酸化物(SO_x)をほとんど含まない、再生可能なエネルギーとして、地球温暖化防止に役立っています。

お問合せ 宮城交通株式会社 営業部 022-771-5313



バイオディーゼル燃料バス

ハイブリッドバスの導入

岐阜乗合自動車では、平成20年11月に新型ハイブリッドバスを新たに2両導入し、現在は岐阜市内ループ線などで9両のハイブリッドバスを運行しています。このバスには、クリーンディーゼルエンジンと電動機を組み合わせたパワーユニットが搭載されており、低公害・低燃費・高出力を実現しています。また、コンパクト化したハイブリッドシステムユニットを、ルーフ上に設置することでノンステップ化を実現しているほか、車内も高齢者や視覚障がい者の方々に認識しやすい配色や滑りにくいノンスリップタイプの床材を採用するなど、どなたにも快適・安心にご乗車いただける機能が充実しています。

お問合せ 岐阜乗合自動車株式会社 総務人事部 058-240-8800



ハイブリッドバス



Taxi



「名タク」の愛称で親しまれているタクシー事業は、東海北陸地域を基盤に事業展開しており、地域の足として質の高いサービスを展開しています。多くの会社が「グリーン経営認証」を取得し、エコドライブやアイドリングストップ、低公害車の導入など、環境に配慮した経営を進めています。人工衛星による自動配車システムの導入など、スムーズで効率的な配車によって余分な走行を減らし、CO₂削減に貢献しています。

エコ・ドライブの推進

名鉄交通では、平成16年に取得した「グリーン経営」のさらなる向上をめざし、名古屋市が認定している「エコドライブマイスター」の認定講習をグリーン経営推進室および現場の全支配人が受講し、エコドライブマイスターに認定されました。

この「エコドライブマイスター」認定者は、各事業所でエコドライブの取り組みが確実に実践されるよう、周知および指導に努めなければいけません。エコドライブの推進を強化し、CO₂の削減をめざします。

お問合せ 名鉄交通株式会社 グリーン経営推進室 052-331-2221

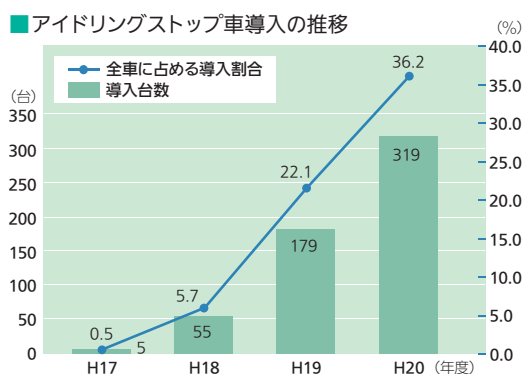


エコドライブマイスター設置事務所証明証

アイドリングストップ車の導入

名鉄交通では、平成17年度から車両代替時にアイドリングストップ機能つき車両を積極的に進めてまいりましたが、平成20年度は140台導入し、全車両の35%はアイドリングストップ車になりました。平成21年度も積極的な導入を行い、全車両の半数はアイドリングストップ車とし、CO₂の排出削減と燃費の向上に努めていきます。

お問合せ 名鉄交通株式会社 グリーン経営推進室 052-331-2221



TOPICS

エコアクション21の認証を取得

名鉄交通商事では、名鉄グループでは第1号となる「エコアクション21※」の認証を取得しました。環境経営システムの構築および経費の削減を目標に、従業員一丸となって取り組んでいます。今後も、良質な商品・サービスを提供し、お客さまに満足していただけるよう、環境にやさしい商品の提案ができる企業をめざします。

※財団法人地球環境戦略研究機関持続性センターが主に中小企業などを対象に、環境経営システムや環境への取り組みについて認証する制度。

お問合せ 株式会社名鉄交通商事 事業部 052-351-6381



エコアクション21

認証・登録番号 0003737

Transport

トラック



「こぐまのマーク」で親しまれているトラック事業は、トラック輸送はもとより、コンテナ輸送や引越便、保冷車輸送などの名鉄運輸グループの総力を複合したネットワークを全国的に構築して事業を営んでいます。

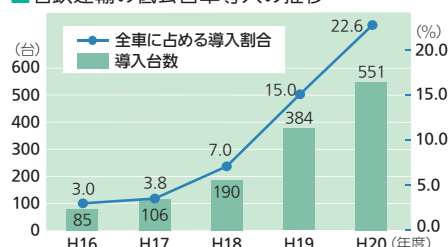
一方で、ISO14001の認証取得やグリーン経営認証取得を各社が進めるとともに、エコドライブの推進や低公害車の導入など、本業に直結した取り組みを積極的に進めています。

低公害車の導入拡大と、燃費向上による環境対策への取り組み

名鉄運輸では、CO₂の削減や環境対策強化の一環として、低公害車やアイドリングストップ車の導入を推進しています。東京・名古屋・大阪など主要都市のNOx・PM法適用エリアを中心にCNG(天然ガス)車の導入を積極的に実施するとともに、アイドリングストップ車・ハイブリッド車も大幅に導入しています。

さらに、燃費向上を図るためにエコドライブ研修会を各地で開催し、各ドライバーに省エネ運転の指導を行っています。またデジタルタコグラフの装着を進めるなど燃費向上による環境対策にも取り組んでいます。

名鉄運輸の低公害車導入の推移



ハイブリッド車

お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-5721

エコドライブの推進による燃費向上

名鉄ゴールデン航空では、グリーン経営の取得や東京都トラック協会が推進するグリーン・エコプロジェクト(以下GEP)に参加するなど、積極的に環境負荷の低減に取り組んでいます。

GEPとは、燃料集計データをもとに、「エコドライブ活動の進め方」、「ドライバーへの教育方法」などのエコドライブに関するセミナーを管理責任者が受講し、管理責任者がドライバー達にエコドライブの趣旨や目的を教えることにより燃費の向上をめざすもので、受講した東京支店では約2～3%の燃費向上につながりました。また、エコドライブの相乗効果として、急発進をしないことにより、車間距離を保ち、追突事故防止につながるなど安全面にもエコドライブが役立っています。これからもセミナーでの知識を活かして社内全般の燃費向上に役立てていきます。

お問合せ 名鉄ゴールデン航空株式会社 03-3669-5641

TOPICS

「MEITETSU ECO DIESEL OIL」販売開始

名鉄産業では、平成20年7月から名鉄グループのバス・トラック会社を中心とした運輸会社向けエンジンオイル「MEITETSU ECO DIESEL OIL」の販売を開始しました。このオイルは、「名鉄」の名を冠した名鉄産業初のPB商品で、従来の製品より交換サイクルを長くすることが可能となり、整備費や廃油排出量の削減につながるほか、平成15年規制の排出ガス規制に対応した環境にやさしいエンジンオイルです。

東京、大阪(平成21年1月施行)など大都市部においては、ディーゼル微粒子除去装置未装着車は乗り入れできなくなる傾向にあり、まさに時流に乗ったエンジンオイルといえます。

すでに名鉄観光バス、宮城交通、名鉄運輸などが採用しており、またグループ内外の運輸会社へ広く採用されるよう積極的に提案中です。

お問合せ 名鉄産業株式会社 エネルギー事業部 052-821-1292



流通



Commerce



百貨店事業は、名鉄百貨店および金沢名鉄丸越百貨店（めいてつ・エムザ）がそれぞれ愛知県、石川県で営業しています。また、名鉄駅構内・ホームで売店やコンビニエンスストアを展開する名鉄産業、各種物販や駐車場、カーリースなどを行う名鉄協商など、多方面にわたって事業を展開しています。従業員の取り組みにとどまらず、エコバッグの利用や簡易包装、レジ袋削減などお客さまにもご協力をいただきながら、環境に配慮した事業活動を推進しています。

駐輪場サービスを開始

名鉄百貨店本店では、平成20年11月より、駐輪場サービスを開始しました。自転車でご来店いただいたお客さまを対象に、お買上げ税込み2,000円以上で、「MAYパーク自転車駐車場」の一日駐輪券をお渡ししています。「MAYパーク自転車駐車場」は名古屋駅周辺に15カ所あり、約5800台分ある指定駐輪場です。このサービスをご利用いただき、お客さまにお車から、「環境にやさしい」自転車でのご来店に切り替えていただくことで、環境保全への効果が期待されます。

お問合せ 名鉄百貨店本店 総合サービスカウンター 052-585-2282



MAYパーク自転車駐車場

地産地消をコンセプトとした安心・安全な食品の提供

金沢名鉄丸越百貨店では、地下食品フロアに平成21年2月に、地産地消をコンセプトとした地元北陸産の食品を提供する「ほくりくキッチン」をオープンし、地元のお客さまはもとより広域から観光のお客さままで賑わっています。

フードマイレージの観点と顔の見える身近な生産者から供給される安心、安全な食品の取り扱いに力を入れ、お客さまからご好評をいただいています。

お問合せ 株式会社金沢名鉄丸越百貨店 食品・レストラン部 076-260-2080



地下食品フロア「ほくりくキッチン」

NO!レジ袋スタンプカードキャンペーン

名鉄産業では、名鉄主要駅を中心に展開している売店「サンコス」等でのレジ袋の削減をめざし、これまでも声かけ運動などを行っていますが、平成20年2月より「NO!レジ袋スタンプカード」を用いたキャンペーンを実施しています。お客さまが店頭でレジ袋を断られた場合、1回ごとにスタンプを1個押印、25個集めると100円のお買い物券としてご利用いただけます。このキャンペーンは、当初平成21年3月で終了の予定でしたが、大変ご好評を得たため、平成22年3月まで延長しています。

お問合せ 名鉄産業株式会社 販売部 052-821-2109



NO!レジ袋スタンプカード

不動産・開発



Real Estate Development



不動産・開発事業では、名古屋鉄道が沿線および北陸地区での大規模住宅団地の開発、ビルの賃貸事業を展開しているのはじめ、名鉄不動産などが土地建物の販売、賃貸借、不動産の仲介、建設工事の設計・施工・監理などの事業を展開しています。設計・建築から販売に至るそれぞれのプロセスにおいて環境負荷の軽減に配慮し、省エネ設計や有害化学物質の削減、周辺環境との調和した街づくりなどに積極的に取り組んでいます。

（仮称）名鉄不動産名駅ビルでCASBEEのAランク取得予定

名鉄不動産は、平成22年4月に竣工予定の「（仮称）名鉄不動産名駅ビル」において、建築物の環境性能で評価・格付けする手法であるCASBEE（建築物総合環境性能評価システム）のAランクを取得予定です。太陽光発電や屋上緑化はもちろん、床面から天井まで大型のガラスのサッシを装備することで、自然光をしっかりと取り込んでいるほか、省エネ対応ガラスの採用により、冷暖房効率を高めるなど、環境に配慮したプランニングになっています。

お問合せ 名鉄不動産株式会社 企画事業部 052-581-1277



（仮称）名鉄不動産名駅ビル

太陽光発電システムの導入

メイエレックは、環境負荷の軽減を図るため、本社南館屋上に太陽光発電設備を設置しました。これは、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の太陽光発電新技術等フィールド事業に採択され、貴重資源であるシリコン使用量が少なく済む薄膜太陽電池パネルの、データ収集・分析について共同研究を行うものです。1日当たり快晴時で約100kWhの発電量があります。太陽光発電データをリアルタイムでNEDOに送付し、それを基に最適なシステムの構築資料としています。

今後、この共同研究を通じ、環境に対する意識をさらに高め、太陽光発電の普及に貢献していきたいと考えています。

お問合せ メイエレック 設備工事業部 052-678-1772



太陽光発電設備

ビルオーナーへの省エネ改善提案

名鉄ビルディング管理では、各種の資格を持ち管理業務に熟達した技術者により、日常業務および定期点検業務を実施する中で、設備機器の変化を早期に発見し、適切な処置を行うことで、省エネルギーに貢献するとともに、ISO14001の認証を取得し、環境負荷低減に全従業員をあげて取り組んでいます。

また、管路の変更や回路の変更などによる照度アップや、ポンプのインペラカットによる電気使用量の削減をお客さまに提案し、ビル管理業務を通じた環境負荷軽減の取り組みを行っています。

お問合せ 名鉄ビルディング管理株式会社 総務部 052-551-0710



ポンプのインペラカット
……ポンプの羽根車を削ることでエネルギー消費量を抑える

ホテル



H o t e l



ホテル事業は、名鉄グランドホテルをはじめ、中部圏の主要な交流拠点に立地する都市型ホテル、岐阜グランドホテルなど大型コンベンションの機能を併せ持つリゾートホテル、名古屋圏を中心に展開する名鉄インの宿泊特化型ホテルなどを運営しています。ホテルサービスの事業活動から生じる環境負荷の低減を進めつつ、同時に優れたサービスと商品を提供していくため、環境マネジメントシステムの導入、省エネルギー、リサイクルにも積極的に取り組んでいます。

ぎふ省エネチャレンジ事業者コンテストで表彰

岐阜グランドホテルは、岐阜市が市内の事業者の省エネ活動を応援し、さらなる省エネ活動に努めることを期待して、平成20年8月から10月までの3ヵ月間実施した「ぎふ省エネチャレンジ事業者コンテスト」に参加した結果、平成20年度上位事業者として認定され、岐阜市地域温暖化対策推進委員会から表彰状と副賞の電動自転車を授与されました。これは、同ホテルが平成19年に生ゴミ処理機を導入し、生ゴミの堆肥化によるリサイクルの推進と廃棄物削減に貢献していることが認められたものです。今後も、お客さまへのサービスとともに、生ゴミの堆肥化をはじめとする環境活動を実施したいと考えています。

お問合せ 株式会社岐阜グランドホテル 総務部 058-233-1118



ぎふ省エネチャレンジ事業者コンテスト表彰状と副賞の電動自転車

段ボールの再資源化

名鉄犬山ホテルでは、平成20年6月より不要になった段ボールを古紙リサイクル業者に再生資源として売却し、リサイクルに貢献しています。これにより、年間で約27t発生する段ボールゴミの削減につながっているだけでなく、大切な資源を有効に利用することができます。また、不要な段ボールは1kgあたり約4円でリサイクル業者に引き取ってもらうため、処分費用の削減にも効果がありました。今後も、廃棄物の削減と資源の有効利用に積極的に取り組んでいきます。

お問合せ 株式会社名鉄犬山ホテル 総務部 0568-61-2210

TOPICS

高効率貫流式ガスボイラーを導入

名鉄クリーニングは、平成20年12月から高効率な貫流式ガスボイラーを導入しました。これは、(財)省エネルギーセンターの補助金を受けて行うESCO事業として、高い省エネルギー効果のある施設改良工事に対して工事費の2分の1が補助されるというものです。重油からガスに切り替えることにより、約2割の燃料費削減が見込まれ、これを原資に工事費を分割払いすることで初期投資をゼロに抑えられるほか、CO₂排出量も全体の4割強に当たる1,100tが削減できます。

お問合せ 株式会社名鉄クリーニング 052-501-5511



貫流式ガスボイラー



Leisure



古き良き明治時代を今に伝える博物館明治村、世界各国の暮らしや文化を紹介するリトルワールドなどの文化テーマパーク事業、世界屈指のサル類動物園を併設した日本モンキーパーク、水族館と遊園地を併設した南知多ビーチランドなどのアミューズメント事業を、名鉄インプレスが運営しています。

また、新穂高と中央アルプス駒ヶ岳のロープウェイ事業では、中部山岳地帯の雄大な自然をお楽しみいただけます。

動物園テナガ・クモザルの池のビオトープ化

日本モンキーセンターでは「サル」を切り口に、生物の多様性やいきものと環境との関わりについての理解を深める展示をめざしています。平成20年度には人気施設「モンキースクランブル」を構成する人工池「テナガ・クモザルの池」のビオトープ化に取り組みました。水面面積およそ1,000㎡、総水量約500tの池は、ヨシ、アゼスゲ、オモダカ、キクモ、ヒルムシロやコウホネなど地元犬山の自然に合った植物を適切に配することで施設の景観が大幅に向上し、環境教育の場として活用されています。また副次的効果も大きく、植物の自然浄化作用によって水質が一定に保たれ、年1回行ってきた池の水替えが不要になるとともに、漏水防止効果も相まって限りある資源である水の大きな節約となっています。

お問合せ 財団法人日本モンキーセンター 0568-61-2327



植栽の様子

オホーツク流水トラスト運動に参画

道東観光開発は、平成19年度から引き続き、環境保全運動「オホーツク流水トラスト運動」に参画しています。オホーツクを訪れるお客さまのために、いつまでも流水が見られる海を守り続けたいという思いのもと、「流水の保護」をキーワードに地域が一つになった運動を展開しています。

流水の減少という形で、地球温暖化の影響を強く感じるオホーツクから地球温暖化への警鐘をならすイベントの開催のほか、ホテルのロビー等での室温設定見直し(例: 冬季は21℃を目安に1~2℃下げる)などの環境保全活動も広く展開しています。

お問合せ 道東観光開発株式会社 総務部 0152-48-2120



流水観光砕氷船「おーろら号」

TOPICS

エコ運転で燃料使用量の削減

太平洋フェリーは平成20年10月にダイヤ変更をした際、平均航海速力をおよそ21ノットから20ノットに減速しました。これにともない、名古屋～仙台～苫小牧の上下区間でそれぞれ35～40分所要時間は増加しますが、消費燃料の削減を図りました。また、閑散期における日曜運休も実施し、CO₂排出量は年間に換算し、約18,000t削減でき、環境への負荷軽減に寄与しています。

お問合せ 太平洋フェリー株式会社 総務部 052-582-8612



きそ

社会 活動報告

地域のみなさまに、
安心、快適を提供し
地域社会の発展に貢献します。



安全への取り組み

鉄道事業にとって、一番大切なものは「安全の確保」です。
お客さまの信頼に応えるべく、日々努力し、安全・安心・安定輸送を追求しています。

【安全に関する基本方針と安全重点施策】

平成18年10月に「鉄道安全管理規程」を定めて安全管理体制を強化するとともに、「安全に関する基本方針」および「安全重点施策」を策定し、鉄道事業に従事する全役職員が一丸となって安全性の向上に努めています。

安全に関する基本方針

会社一丸となって、安全・安心・安定輸送と快適なサービスを提供することにより、
地域社会の発展に貢献していきます。

- 1 事業の推進に当っては、安全の確保をすべてに優先させます。
- 2 法令・規則を遵守し、高い倫理観を持って事業活動を行ないます。
- 3 安全意識を高く持ち、社会の変化に対応した体制をつくります。
- 4 事故が発生した場合は、一致協力してお客さまの安全を第一に行動します。
- 5 常に安全に関する知識・技能の習熟に努めます。

平成21年度 安全重点施策

1 有責事故ゼロの達成

- 全役職員は繰り返されるミスに対し強い危機意識を持ち、徹底的な原因・背後要因の究明と、それに基づいた指導・教育等の対策を強化し、ヒューマンエラーを撲滅する
- ヒヤリハット情報の報告と共有化で事故を未然防止する
- 自社、他社を問わず過去の事故事例から自部署の弱点箇所を把握・改善する

2 本社・現場が一体となった安全確保体制のさらなる向上

- 本社・現場の管理者は、自らの安全意識を常に改革して向上する姿勢を示すとともに、強力なリーダーシップをもって安全を確保する
- 本社・現場の管理者及び係員に対する安全教育を重視し、安全に関する自発的な取り組みにつなげ、業務のさらなる改善をはかる
- 経営トップをはじめとする経営層による現場巡視、ならびに現場の会議等への本社管理者及びスタッフの参加によるコミュニケーション確保と実態把握をさらにすすめる

3 安全関連設備の整備継続

- 安全関連設備への適切な投資を継続する
- 確実な点検と保守整備で土木・電気・駅施設及び車両の故障等を防止する

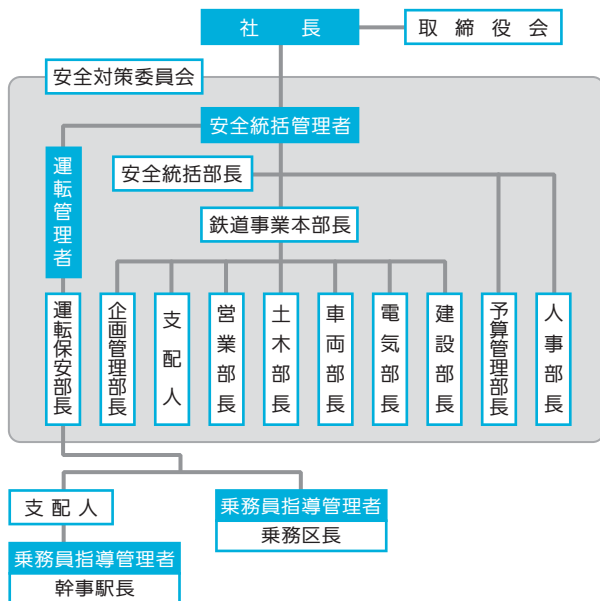
【安全管理体制】

安全管理体制

社長を最高責任者とし、安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者および各責任者の役割を明確にした安全管理体制を構築しています。

安全対策委員会は、輸送業務の実施および管理の方法を確認し、事故の再発防止対策等安全性の向上を図るための施策を推進しており、年1回以上開催しています。

■安全管理体制図



経営トップによる現業職場とのコミュニケーション確保

■社長による職場巡回

社長は、年末年始輸送安全総点検期間中のほか約3ヵ月ごとに職場巡回あるいは現業職場の会議に出席し、現場とのコミュニケーションを確保しています。

■役員による職場巡回

安全統括管理者をはじめとする役員は、自社運動である安全輸送運動および年末年始輸送安全総点検の機会のほか、随時現業職場に出向き、現業職場との意見交換や駅施設や検査場など技術部門の職場を巡視しています。また、沿線における催事等の多客輸送時には当該職場におもむき、輸送の安全確保の取り組み等について確認するとともに、現場係員への激励を行っています。

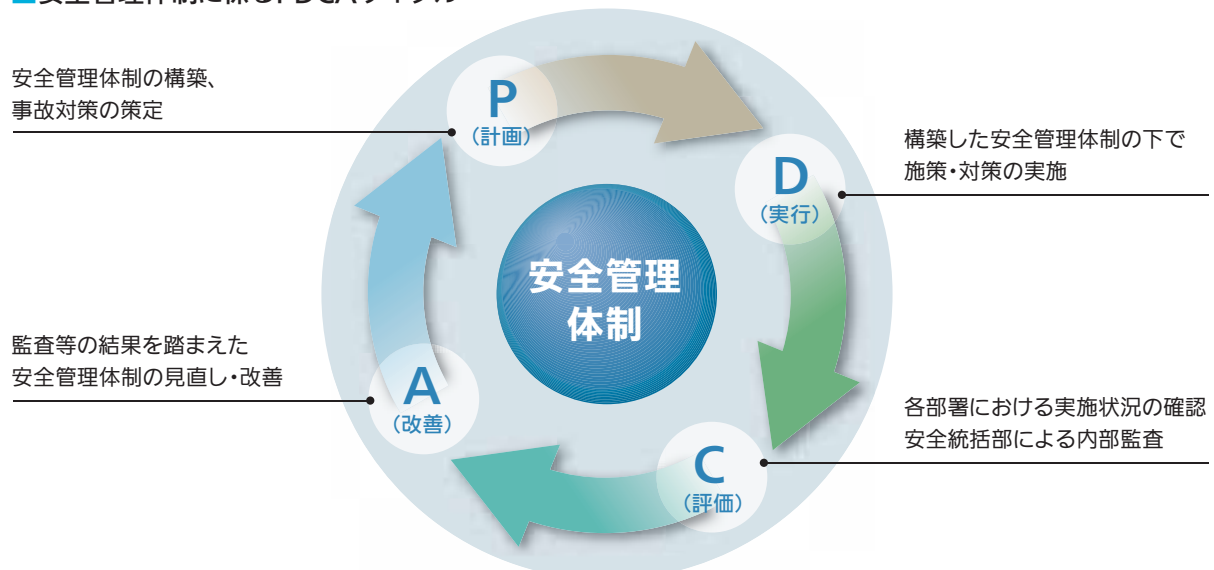


木下社長（現：会長）による職場巡回

内部監査と安全管理の見直し

安全統括部が中心となって、安全管理体制を確認するための内部監査を定期的実施し、それらの結果も参考にして、安全管理体制の改善を図っています。

■安全管理体制に係るPDCAサイクル



【安全性向上対策】

安全への投資

名古屋鉄道では、安全関連設備投資として、平成20年度は104億円（鉄道事業設備投資の72.2%）を投資しました。平成21年度は94億円（鉄道事業設備投資の66.6%）を投資し、安全・保安対策、車両の改良、土木・電気施設の改良、踏切保安設備の新設・改良など、さらなる安全性の向上を図ります。

	平成20年度 (実績)	平成21年度 (計画)
安全関連設備投資	104億円	94億円
その他の設備投資	40億円	47億円
計	144億円	141億円
安全関連設備投資の割合	72.2%	66.6%

列車の安全対策

■ATS

（列車自動停止装置）

ATSは、列車が信号または曲線などで、設定された制限速度を超えて通過すると自動的に非常ブレーキが作動する装置です。



ATS車上装置



ATS地上装置

■防護無線

防護無線は、列車が事故などの緊急時に近くにいる他の列車に警報を無線で発報するもので、乗務員が防護無線装置のボタンを押すと、付近を走行中の列車に警報が列車無線を通じ発信されます。この警報を確認した列車は直ちに停車します。名古屋鉄道では、防護無線の搭載を進めており、平成21年6月末現在の搭載率は73%です。



■車両の検査

車両の保守については、7ヵ所の検査場・検車区において定期的に検査を行い、安全運行に努めています。また、車両の脱線防止対策として、車輪にかかる重量バランスを測定し、安定した走行ができるよう厳密に管理しています。さらに、車両の増備や高性能化に対応するため、平成17年5月に新川検車区を改良しました。また、平成19年6月には、老朽化していた喜多山検車区を尾張旭に移転・新設するなど車両の検査能力を高め、一層の安全性向上に努めています。



尾張旭検車区

駅の安全対策

■列車非常通報装置

ホームからの転落時などに、お客さまや駅係員が駅構内に設置したボタンを押すと、表示装置により列車の乗務員に駅構内で異常があることを知らせます。平成20年度は15駅に設置し、これにより計90駅に同装置が設置されました。今後も順次導入を進め、平成23年度までには121駅において設置する予定です。

お客さまへのお願い

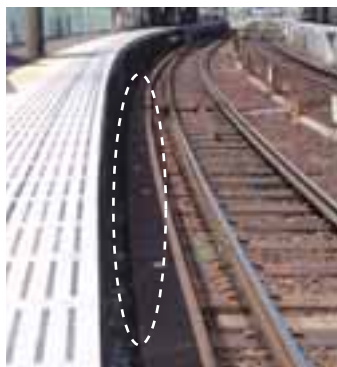
ホームから転落したお客さまを見受けられるなど、列車に危険を知らせたいときは、ホームに設置されている非常通報ボタンを押してください。



列車非常通報ボタン

■転落検知装置

乗車時にお客さまが列車とホームの隙間から転落された場合に、ブザーの鳴動および表示装置により列車の乗務員に異常を知らせます。現在3駅に設置しています。



■車両転落防止幌

ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に設置を進めています。平成21年度6月末現在で、323編成中202編成に設置し、整備率は62.5%です。



踏切・線路の安全対策

■踏切障害物検知装置

踏切内での落輪や停滞などによる踏切事故を防ぐため、交通量の多い主要踏切に踏切障害物検知装置を設置しています。しゃ断桿が降下を完了してから、踏切内に何らかの障害物があると検知した場合、表示装置により列車の乗務員に異常があることを知らせるとともに、連動するATSを動作させます。



お客さまへのお願い

警報機が鳴り出したら、絶対に踏切を渡らないでください。万一、車が踏切内に閉じ込められたら、車でしゃ断機のさおを押し出して、急いで踏切の外へ脱出してください。

■オーバーハングせん光灯

道路に張り出す形で設置するせん光灯をオーバーハングせん光灯といいます。遠くから踏切に接近する自動車に対して、視認性を向上し警告することができます。



■光るしゃ断桿

交通量の多い踏切のしゃ断桿に、超高輝度LEDを順次取り付け、警報開始と同時に点滅させドライバーに注意喚起しています。



■線路の保線

保線業務は安全輸送の要であり、定期的に線路巡視を行い、線路の状態を点検・確認して適正な線路状態を保っています。また、レール探傷やレール削正、道床のつき固めなど安全のための線路保守を行っています。

■線路の高架化

踏切での交通渋滞や都市機能の分断を解決するため、国や地方自治体が行う鉄道立体交差事業等に協力し、沿線各地で工事を積極的に推し進めています。

■立体化工事中区間

路線名	区 間	距 離
常滑線	新日鉄前～尾張横須賀間	2.0km
河和線	太田川～高横須賀間	0.7km
名古屋本線	一ツ木～牛田間	2.6km
三河線	重原～三河八橋間	2.7km
三河線	三河知立～若林間	1.7km
瀬戸線	小幡～大森・金城学院前間	1.9km
河和線	成岩～上ヶ間	1.6km
犬山線	石仏～江南間	1.8km

(平成20年度末時点)

自然災害への対策

■降雨対策

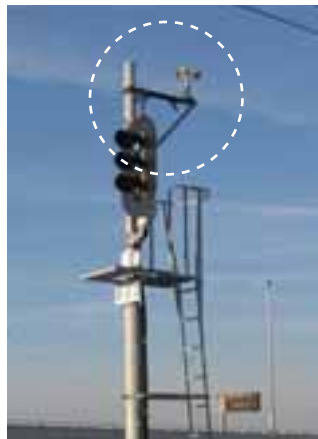
降雨時における土砂崩壊などによる運転事故を未然に防止するため、沿線主要駅に自動雨量計を設置し、計測された雨量を基に列車の運転に関する規制を行っています。自動雨量計は、現在25ヵ所に設置しています。



自動雨量計

■強風対策

台風、低気圧接近時など強風による運転事故を未然に防止するため、沿線の橋りょう、高架部付近に風速計を設置し、計測された風速値を基に列車の運転に関する規制を行っています。風速計は、現在12ヵ所に設置しています。



風速計

■地震対策

地震が発生した場合において、沿線9ヵ所に設置した地震計で計測された地震加速度を基に列車の運転に関する規制を行っています。震度が概ね2.5ガル(震度4相当)以上の場合、列車無線を通じ、各列車に対して自動的に停止指示を通報します。



地震計

■早期に地震を警告するシステムの導入

大規模地震発生時の被害を防止あるいは軽減するためのシステムを平成19年10月に導入しました。これは、気象庁が大地震が発生する前に発信する「緊急地震速報」を受信し、社内システムで演算した結果、震度4以上の地震が沿線で発生すると予測した場合は、列車無線を通じ、各列車に対して自動的に停止指示を通報するものです。

緊急時対応訓練

■総合事故復旧訓練

緊急時に対応できるようさまざまな訓練を実施しています。平成20年度は、名古屋本線・西枇杷島駅構内において、地震災害を想定した避難誘導訓練および列車脱線事故復旧訓練を実施し、約260人の社員が参加しました。



避難誘導訓練



脱線事故復旧訓練

鉄道テロ対策

■防犯カメラの設置

テロ防止を視野に入れた防犯カメラについては、名鉄名古屋駅などに設置しています。また駅集中管理システム導入駅にも、駅務機器管理用の監視カメラを設置しており、防犯目的としての使用が可能です。



■「目に見える」巡回警備

主要駅に警戒腕章を配布し、係員が警戒巡回等を実施する際に着用することによって、テロの抑止効果を高めています。



■不審物発見時等に関するご協力をお願い

ポスターや列車内の電光表示器での掲示、また駅構内・車内放送等により不審物発見時等の情報提供をお願いしています。



乗務員の養成

お客さまの命をお預かりし、列車を安全に運行する乗務員の使命は重大です。お客さまからさらなる「安心」と「信頼」をいただくため、乗務員の養成に全力で取り組んでいます。

運転士の養成教育

1. 学科講習

国土交通省から指定を受けた教習所で、鉄道の安全・運転法規・鉄道車両・信号線路等の学科講習を行います。また、コンピューターグラフィックスによる支援教材(CAI)を活用して車両機器の構造、運転取扱い、運転理論等の学科講習も行います。



2. 車両教習

実際の車両を使用して、出庫点検・故障処置・事故発生時の処置手順等の教習を行います。



3. シミュレーター教習

運転準備、運転姿勢、指差確認称呼、列車の操縦を体感し技能講習に備えます。



4. 運転技能講習

教導運転士の指導のもとで、実際の列車に乗務して運転士としての技能を習得するとともに責務の重大さを学びます。



TOPICS

踏切安全の日

毎月23日を「ふみきり安全の日」として、主要踏切等において踏切事故防止の啓蒙活動を実施しています。踏切停車中のドライバーや、登校中の生徒にリーフレットやPRグッズを配布し、踏切事故防止を呼びかけています。



リーフレット



踏切事故防止の啓蒙活動



お客さまとのかわり

名古屋鉄道は、皆さまに安心してご利用いただける人にやさしい鉄道づくりをめざし、駅施設等ハード面の改良とともにソフト面でのバリアフリー化にも取り組んでいます。

CS向上活動の推進

多様化するお客さまへのご要望に的確にお応えし、サービス面でのCS向上を図るため、平成17年10月にCS推進体制を再構築し、特に接客サービスの向上を目標に展開しています。鉄道事業本部長を委員長とするCS推進委員会の下、各駅・乗務区にCS推進専任者・担当者・委員を配置し、本社から現場の第一線まで一体となってCS向上に努めています。

名鉄お客さまセンター

平成16年10月、お客さまへのサービス向上を図るため、「名鉄お客さまセンター」を開設しました。お客さまからの各種お問い合わせに対し迅速かつ適切に対応することはもちろん、お寄せいただいたご意見・ご要望等から、問題点や課題を抽出し、サービス向上や業務改善に生かしています。

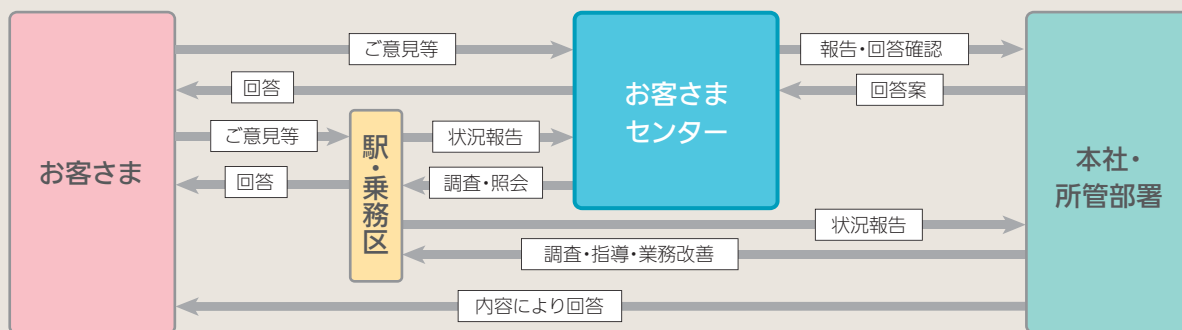
名鉄お客さまセンター TEL 052-582-5151
営業時間 平日8:00～19:00
土日休日および年末年始8:00～18:00

サービス介助士

お年寄りやお体の不自由なお客さまにも快適にご利用いただけるよう「サービス介助士」の有資格者を主要93駅に456名配置しています。(平成21年3月31日現在) 専用の名札を着用し、資格を生かした細かい配慮により車いすの操作などのお手伝いを行っており、今後も順次増員を図っていきます。



■ご意見等の受付・回答の流れ



お客さまの声による改善例

声

事故があったのは知っているがいくら待っても電車が来ません。無人駅で係員もいないし全く状況がわからない。

改善

旅客指令から駅係員に対し、迅速に情報を伝えるシステムを導入したことにより、無人駅のインターホンからのお問い合わせにもスムーズに対応できるようになりました。



声

名古屋駅では行先表示が多くどこに並んでよいかわからない。

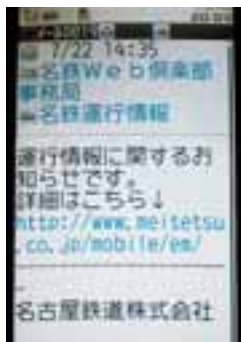
改善

電光式の乗車位置標と同色の整列乗車のラインを設置するとともに、二列でお並びいただけるよう声かけも行うようにしました。



列車運行情報メール配信サービス

列車運行情報をお客さまに迅速にお伝えできるよう、平成20年5月から「運行情報メール」配信サービスを開始しました。これは、運行支障等により当社のホームページに「運行情報」が掲出されたことを、お客さまの携帯電話等にメールでお知らせするものです。これにより、お客さまが駅にお越しただく前に電車の運行状況を把握できるような環境整備の充実を図りました。



遺失物管理システム

電車内や駅でのお忘れ物を照会できる「遺失物管理システム」を名鉄お客さまセンターや有人駅に導入しています。駅係員がお忘れ物をお預かりした日時や場所、特徴などをシステムに登録することによりお忘れ物の状況をリアルタイムで検索・把握することが可能になり、容易にお客さまへのご案内ができるようになりました。

「耳マーク※」の駅窓口への掲出

平成18年6月より、耳の不自由なお客さまに安心して鉄道をご利用いただくため、駅の窓口に、「耳」をデザインした「耳マーク」のステッカーを掲出し、筆談等による案内を積極的に実施しています。

※「耳マーク」は、(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会が、耳の聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知していただき、コミュニケーションの配慮などの理解を求めていくために考案されたものです。



「AED」の設置

東岡崎駅、名鉄名古屋駅、金山駅、神宮前駅、中部国際空港駅、鳴海駅、犬山駅、太田川駅の計8駅にAED(自動体外式除細動器)を計14台設置しています。設置駅にはAEDの取扱いの研修を受けた駅係員を配置しています。



見やすい案内表示の実施

お客さまに駅をスムーズにご利用いただくため、駅の案内表示類は「ユニバーサルデザイン」の考え方に沿った、ピクトグラム表示、外国語表記での整備を積極的に進めています。

特に、名鉄名古屋駅、金山駅、中部国際空港駅などの駅においては、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語)の案内表示や駅名をアルファベット順に並べた運賃表の整備等、外国からのお客さまにもご利用いただきやすい駅の案内表示を行っています。

今後も、お客さまの視点に立ち、掲出方法に工夫をしながら、便利にご利用いただきやすい駅を実現してまいります。



ピクトグラム



アルファベット順に並べた運賃表

マナーアップキャンペーンの実施

お客さまに気持ち良く鉄道をご利用いただけるよう乗車マナー向上のご協力をお願いしており、平成21年2月2日から同15日まで、乗車マナーアップキャンペーンを実施しました。「気づこう、マナー違反。」をキャッチフレーズに、名鉄名古屋駅階段へのステップシートの貼付や、駅や車内へのポスターの掲出、主要駅の自動改札機へのステッカーの貼付、車内放送や駅構内放送などさまざまな施策を行うことで乗車マナー向上を呼びかけました。



駅掲出ポスター



ステップシート

駅の禁煙化

健康増進法の施行に伴い、受動喫煙の防止を図るため、平成17年1月から全駅で駅構内の終日全面禁煙化を実施しています。



地域社会とのかかわり

名鉄グループでは、事業を通じて永く社会に貢献していくため、さまざまな場面で地域の皆さまと連携し、地域発展のお役に立ちたいと考えています。

「名鉄でんしゃまつり」の開催

ご家族向け鉄道イベント「名鉄でんしゃまつり」を平成21年5月に舞木検査場で開催し、約3,300名のご参加をいただきました。会場では、「ミュースカイ」の運転台乗車体験や「電車と綱引き」など、名鉄電車で親しんでいた多彩なイベントを実施しました。また会場内に「でんしゃって『エコ』コーナー」を設け、当社の環境への取り組みや、鉄道の環境優位性に関するPRを行いました。



36tクレーンによる作業実演



電車と綱引き

地元タイアップキャンペーンの展開

沿線の自治体と連携した観光キャンペーンを積極的に展開しています。平成20年は愛知県犬山市、旧東海道沿いの8自治体などと連携し、当社の持つ駅・電車などの資産と、沿線にある豊富な観光資源を生かして、沿線観光地の魅力を引き出し、活性化す



春の犬山キャンペーンポスター

る取り組みを「デスティネーションキャンペーン」として展開しました。

今後も、沿線各地と連携を図りながら、沿線価値の向上につながるキャンペーンを展開していきます。

名古屋駅地区街づくり協議会への参画

平成20年3月に発足した「名古屋駅地区街づくり協議会」は、名古屋駅地区の活性化と地域価値を維持向上させる趣旨に賛同した、同地区に土地や建物を所有する企業等40社（平成21年8月現在）で構成され、当社および当社グループ4社（名鉄協商、名鉄不動産、名鉄百貨店、名鉄レジャック）も参画しています。

同協議会は、駅周辺の活性化に向けた課題を共有し、名古屋駅地区を多くの方が訪れ・働き・学び・住みたい街にするため、事業企画委員会・都市再生委員会の2つの専門委員会を発足させ、街のにぎわい創出のための企画や、街づくりガイドラインの検討など、ハードとソフトが連動した総合的なエリアマネジメントに取り組んでいます。同協議会の活動はホームページでも随時情報を提供しています。

名古屋駅地区街づくり協議会ホームページ
<http://www.nagoyaeki.org/>



ワークショップ



名古屋駅前で打ち水イベント

「名鉄沿線おでかけマガジンWind」の発行

沿線情報や営業情報を提供するため、「名鉄沿線おでかけマガジンWind」を発行しています。毎月1回、9万部発行し、名鉄沿線各駅で無料で配布しているほか、ホームページでもご覧いただけます。



「名鉄沿線おでかけマガジンWind」

TOPICS

交通安全教室を開催

名鉄バスでは、平成20年5月に岡崎市内の小学校で、全校生徒500人を対象に交通安全教室を開催しました。実際にバスを校庭へ乗り入れ、内輪差の実演や停車距離実験、飛び出し実験などを行い、迫力のある実演を生徒たちも興味深く見守り、自動車の恐さと交通安全の大切さを体感。また、バスの乗り方教室も開催し、高学年の生徒たちが整理券の取り方や運賃表の見方などを学びました。

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780

「こども110番の駅」の取り組み

こどもを狙った犯罪の防止や安全な地域づくりなどを目的として、日本全国の鉄道事業者(139社局)と共同で「こども110番の駅」の取り組みを行っています。当社では終日駅員配置駅で「こども110番の駅」ステッカーおよびポスターを掲出し、こどもが助けを求めた場合、駅係員はこどもを保護し、こどもに代わって110通報を行うなどの対応をとります。



©2009 Gullane(thomas)Limited



交通安全教室

TOPICS

「こども110番バス」の運行

豊鉄バスでは、平成20年1月、田原市が豊鉄ミデイに運行委託するコミュニティバス「ぐるりんバス」とともに県内初の試みとして田原地区より「こども110番バス」を運行しています。同年7月には、県内2番目となる新城市内でも運行を開始しました。「こども110番バス」とは、車両前面と側面の乗降口付近に表示ステッカーを貼り付けて運行し、児童が助けを求めてきた際、バス内に児童を保護し、無線連絡により営業所の指示でその後の対応を行うものです。今後も、安全・安心な地域づくりに貢献するとともに、こどもたちにとって楽しく、フレンドリーな「バス」づくりをめざしていきます。

お問合せ 豊鉄バス株式会社 バス事業部 0532-44-8414



こども110番バス出発式

社会への貢献

■文化財の保護

博物館明治村は、昭和40年の開村以来、近代日本の基礎を築いた明治時代の建造物の移築や物品の収集に取り組んできました。約100万㎡の敷地に、国の重要文化財12件をはじめ、国登録有形文化財に指定された60余件の建造物が保存展示され、本物ならではの文化的価値に触れることができます。



芝川又右衛門邸

芝川又右衛門邸

阪神・淡路大震災の際に被災した「芝川又右衛門邸」は、関西近代建築の祖とも呼ばれる武田五一の設計で、震災の際には煙突・暖炉のみが被災し、建物自体にはほとんど被害がありませんでしたが、現地での保存が困難となったため、博物館明治村へ輸送され、平成17年1月から復原工事に着手、平成19年9月より一般公開しています。

■名鉄国際育英会

昭和58年に、それまでの名鉄育英会を統合して財団法人「名鉄国際育英会」を設立し、愛知県で学ぶ外国人留学生などに奨学資金を援助する国際的な育英事業を行っています。名鉄グループは、こうした教育機会の提供を通じて、青少年の育成に貢献しています。

■ライフサポート事業の展開

少子高齢化社会、バリアフリー社会に対応し、お年寄りの介護や看護、あるいは子育て支援など、生活支援サービスを行う各種の事業を展開しています。

名鉄不動産では、介護付き有料老人ホーム「名鉄メイライフあじま」を運営しています。ご入居の皆さまに安心してお過ごしいただけますようきめ細かなサービスを提供しています。



メイライフあじま

TOPICS

社員が日間賀島の清掃奉仕活動を実施

名鉄海上観光船では、日間賀島観光協会と協力して、平成20年11月に島内の清掃に取り組みました。同社から21人、観光協会から100人が参加し、道路沿いの草刈りやゴミ拾いなど、きれいな島をめざして清掃作業を実施しました。日間賀島は、同社の定期航路の重要な拠点であり、冬期には「ふぐ料理」で知られ、多くのお客さまが訪れます。

同社は、社会貢献活動の一環として、同様に航路を持つ篠島でも清掃活動を行っており、今後も定期的に実施していく予定です。

お問合せ 名鉄海上観光船 営業本部 052-882-8161



日間賀島での清掃活動



株主・投資家の皆さまとのかかわり

名古屋鉄道では、株主・投資家の皆さまに企業経営に関する情報を適時適切に開示し、経営の透明性を確保し、信頼される企業をめざします。

適時適切な情報開示

株主・投資家の皆さまに対し、当社の財務状況や設備投資など、投資の判断に必要な経営情報を適時適切に開示し、会社の状況を正しく理解していただけるよう努めています。

株主の皆さまには、半期ごとに決算の概要等を記載した報告書を送付し、経営状況を報告しています。また、ホームページに「株主・投資家情報」のサイトを設け、重要な企業情報の適時適切な提供に努めています。

株主総会

第145回定時株主総会を平成21年6月25日に開催し、1,000名を超える株主の皆さまにご出席いただきました。当日は、映像を交えながら、平成20年度の事業報告や連結計算書類の説明等を行いました。



インサイダー取引の防止

投資判断に重要な影響を及ぼす重要事実に関する情報の管理および特定有価証券等に係る売買等の規制について、基本的な事項を定めた「内部者取引管理規則」を制定するなど、インサイダー取引の未然防止に努めています。

■株式の状況(平成21年3月31日現在)

発行済株式総数 881,582,017株

株主数 95,948名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険相互会社	33,036	3.74
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	30,932	3.50
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	26,537	3.01
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	25,291	2.86
第一生命保険相互会社	15,473	1.75

TOPICS

オレンジリボンキャンペーンを実施

名鉄百貨店では、児童虐待防止推進月間である11月に名古屋市が実施した「オレンジリボンキャンペーン」に賛同し、イベントの開催や、ナナちゃんがオレンジ色のスリング(抱っこひも)で子どもを抱きかかえ、オレンジリボンをあしらったワンピースを着用し、従業員はオレンジリボンを佩用するなど啓発の推進に努めました。子どもの虐待の現状を広く知らせ、子どもの虐待を防止し、虐待を受けた子どもが幸福になれるように、という思いが込められています。

お問合せ 名鉄百貨店 営業政策部 売出計画担当 052-585-2850



オレンジリボンキャンペーン中のナナちゃん



従業員とのかかわり

従業員一人ひとりが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

人事制度

従業員一人ひとりが、やる気や働き甲斐を持って自らの役割を高いレベルで遂行できることを目的とした「役割等級制度」を導入しています。この制度は、組織において期待される役割を処遇決定の中心とするもので、コース・職種に応じて期待される役割を明確に定義し、従業員に明示しています。

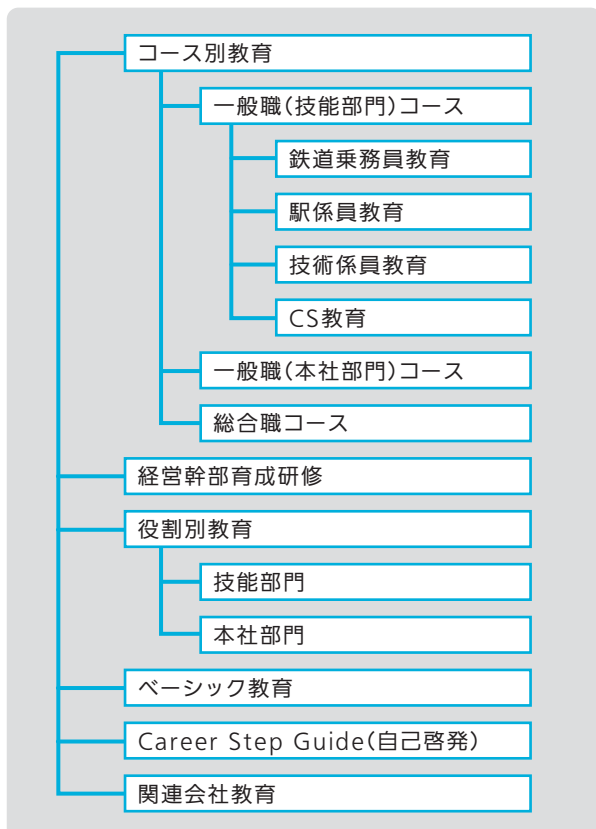
また、期待される役割の遂行度合いを、複数の観点から客観的に評価し、その結果を従業員本人にフィードバックすることで、評価の透明性・納得性を高めるとともに、効果的な指導や従業員のさらなるスキルアップも図っています。

人材育成

名古屋鉄道は、従業員が担う役割に基づく教育体系を確立し、安全輸送を遂行するため徹底した安全教育と、お客さまサービス向上のための教育に力を入れています。

また、各種能力向上を補うため、「Career Step Guide」を積極的に活用した自己啓発支援制度を導入し、従業員一人ひとりが意欲的に能力を高め、大きな結果を出せる実践的な自己啓発の支援体制を整えています。

■教育体系図 (平成21年4月現在)



女性の登用

昭和58年に鉄道業界で初めて女性乗客係を採用したのをはじめ、昭和61年からは駅現場で改札、案内を担当する係員など、積極的に現場部門に女性を採用してきました。

また、平成11年の男女雇用機会均等法の改正による女性の深夜就業解禁を受け、鉄道の運転部門や名鉄グループのバス乗務員、タクシー乗務員などでも多くの女性が活躍しています。平成21年4月には、当社初となる女性運転士が誕生しています。

労働安全衛生

■労働安全衛生

社員一人ひとりに災害や事故がなく、健康で明るく働けることが、安全の確保とお客さまへのよりよいサービスの提供につながると考え、快適な職場環境づくりに努めています。毎年、安全および衛生のスローガンを掲げ、労働安全衛生に積極的に取り組んでいます。

■メンタルヘルス

メンタルヘルス不全者を発生させないため、また早期に発見できるようにするために、メンタルヘルスに対する正しい知識を身につけるための教育を実施しています。また、メンタルヘルス不全により会社を休んでいる従業員に対しては、産業医および保健師が定期的に保健面談を行い、復職に向けてのフォローアップを行っています。さらに、復職に際して勤務配慮が必要な場合は、産業医による勤務配慮措置により、できるだけ再発することがないような体制を整えています。

働きやすい環境づくり

■セクシャルハラスメント対策

セクシャルハラスメントは、個人の尊厳を傷つけ、能力の発揮を妨げるとともに、当社にとって職場秩序や仕事の円滑な遂行が阻害される問題ととらえ、セクハラ防止のための研修や相談窓口の設置を行い、セクハラのない職場環境づくりに努めています。

広がる！名鉄グループ間交流の輪

名鉄グループ間の交流を図り、グループの結束力を高めてより大きな成果を生み出すため、平成20年度からグループの一体感を醸成するさまざまな施策を実施しています。名鉄グループ全従業員がグループの一員としての役割と責任を強く意識し、「信頼のトップブランド」をめざして前進していけるよう、今後も継続して実施していきます。

名鉄グループ合同入社式

平成21年4月、昨年に引き続きグループ合同入社式を開催しました。当日は、社長からの激励の言葉、新入社員紹介、先輩からのメッセージのほか、グループ企業を紹介するDVD映像の上映や名古屋フィルハーモニー交響楽団・弦楽四重奏による記念コンサートなど、従来とは全く違った雰囲気の中で新入社員の皆さんを歓迎しました。



グループ報「Mei人s(メイツ)」の発行

「グループを知る」を編集コンセプトに、グループ各社からたくさんの方の従業員の方に登場していただき、グループにどのような会社があり、どのような人がいて、どのような仕事をしているのかなどの情報を、グループの多彩な魅力とともにわかりやすく伝えています。



名鉄グループ内外各社視察会の実施

グループ70社・97名の若手社員が参加して、社員同士の交流はもちろんのこと、グループ施設の視察や他企業でのマーケティング研修、コンサルタントによるビジネス研修などさまざまな情報に触れ、これからのグループを担うビジネスパーソンとしてのスキルアップを図りました。



第1回名鉄グループファミリーフェスタの開催

平成20年8月23日と24日の2日間、「吹上ホール」で「第1回名鉄グループファミリーフェスタ」を開催し、2日間で1万人を超える来場者がありました。名鉄百貨店ブースでは、有名ブランドをはじめ衣料品、食料品などを特別価格で販売したほか、グループ33社が出展したグループブースでは、各社自慢のグルメや特産品などを販売しました。



名鉄グループ表彰制度

名鉄ブランドの価値向上をめざし努力している社員やグループの企業価値向上に対して大きな成果を挙げた個人・チーム・会社を表彰し、「ブランドアップ貢献賞」69人(うち優秀賞10人)、「名鉄功労賞」4チームが受賞しました。表彰式には、グループ各社のトップなど約400人が出席し、受賞者を祝福しました。この表彰制度は、各社で頑張っている社員にとっても大きな励みとなりました。





みんなで止めよう温暖化

「名鉄グループ」チーム・マイナス6%



名古屋鉄道株式会社

環境・社会報告書は
ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.meitetsu.co.jp>



地球にやさしい
このルール

このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の
象徴であり、同時に名鉄グループ エコ・ビジョン
の基本理念を達成するための4つの要素—環境
保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」
「地域との連携」を3枚の若葉で、それらを根底で
支える「法令遵守」をレールで表したものです。